

- 二月十九日 第十二回幹事會 東京市衆議院内 議員クラブ
- 二月二十五日 第十三回幹事會 東京丸の内中央亭
- 二月二十七日 第一回總會 東京市日本青年館

- 一、中央融和團體改造に関する件
- 二、建設案に関する件
- 三、總會に關する件
- 四、役員、決算、總會議事内容及新附記者招待に関する件

二條、清岡、稻田、佐々木、南、西久保、荒川、建部等出席

望月氏外十八氏出席

## 第二節 地方的融和團體

### 一 京都府親和會

#### (1) 補助事業

施行市町村	施行事業	事業費	補助費	備考
京都市外八郡町村	教育獎勵事業		一、四四〇圓	市町村會及小學校員に依頼して學業優秀の貧困児に學費の補助をなし現在一〇八名の給與生あり
久世郡宇治町十番組	香茶製造事業	一〇〇〇圓	五〇〇圓	部落の經濟的向上を計り融和の實を擧げしむる爲め事業共同經營に對し器械等購入の半額を補助す
綴喜郡三山木村三山木	共同製繩製蓆事業	一三〇〇圓	五九五圓	
船井郡竹野村新水戸	共同製繩事業	三〇〇圓	一五〇圓	
熊野郡川上村須田	同右	二四〇圓	一二〇圓	
同郡上佐濃村佐野	蓆製品生産事業	七〇圓	三五圓	
(2) 講習會				
開催月日	會名	開催地	状況	備考
大正十五年一月十一日より三日間	婦人文化講習會	天田郡 雀部村	専門講師を聘して料理、洗濯の講習を行ひ和氣麗々裡に修了親善の目的を達した。参加九八	

二月 一二日	同右	何鹿郡 被部町	略々右に同じ各自調理せるを以つて試食會を行ひ楽しく睦み合つた	
同 三、四日	同右	同 東八日村	前項に同じ 参加一三五	
同 五、六日	同右	同 志賀郷村	同 右 参加一四七	
同 七、八日	同右	同 中上林村	眞面目に多く實修にて修了す全く融合せる美しき催である 参加一〇四	
同 九日	同	同 被部町	重機製蓆の製法につき講習せしめ家庭に於て之を行はしめた兩者婦人出席三五	
同 十七、十八日	同	同 被部町	作法並洗濯法に關し練習し親善の度を増進した 出席九八	
同 十九日	同	同 吉野村	前項に同じ 出席一二九	
同 二〇日	同	同 豊榮村	同 出席八一	
同 二二、二三、二四日	同	同 紀伊郡堀内村府立女子師範學校	本會協議員、町村長、小學校長、各團體代表者其他の指導者を網羅し適切な講習の指針に依り従事員の啓蒙さるゝ處大なるものがあつた	
三月五日	同	同 何鹿郡以久田村	専門講師を聘して家庭工業に關する實務を講習し各自の内職と爲し經濟的向上を計るとき兩者婦人の親善を得た 参加三四	
同 八日	同	同 西八田村	前項に同じ 参加三一	
同 十一日	同	同 佐賀村	同 参加四六	
七月十二日	同	同 葛野郡 嵯峨町	近接町村有志の集りにして熱烈なる名士の講義に依り力強き印象を得て修了す 参加一〇八	
八月 自二日至六日	同	同	青年幹部、校長、町村斯道従事員等を集め熱心に終始、勇壯なる講習にして融和事業の將來を期して修了、講習員八九	
同 二十七、二十八日	同	同	家事に關する講習を爲し同會より二名の専門講師を派遣、効果亦少からず参加九五	
九月十五日	同	同	眞面目に修了 参加七〇	
九月十七、十八日	同	同	従事員を集め熱誠なる修了を得、當講習中の快事は福知山警察署員の總動員に依つて爲した 参加三二〇(下村、赤松、梅原の三師の講義である)	
同 十九、二〇日	同	同	協議員各團體幹部、有力者等熱心に講習 参加一三六	
同 二一日	同	同	晝夜の親しみに依りて目的は收められて行く事は各員の感激せる處であつた 参加員五七	



同二六日	同	天田郡下夜久野村	村在六ヶ寺住職は証鉢に依り白米一石四斗金七圓を受け當講習の資にあつた涙ぐましく美舉であつた 参加、九四
十月自四日	融和事業従事員講習會出席	廣島縣 嚴島町	本會より井ノ口英信、和田英一、二氏出席す
十一月十四日	融和事業講習會	天田郡西中筋村	参加員一三〇 所期の目的を達す
十一月二二、二三	青年一夜講習會	天田郡 免原村	寢食行事を共にして同一方途を歩むべく堅き決心を得て効果亦大なるものがあつた 参加六八
昭和二年一月二二、二三	同	同 福知山町	参加員六七
二月十四、十五日	同	船井郡桐之庄村	勇氣に満ち、愉快なる會合にして未曾有の効績を収めて修了した
同 十日	同	何鹿郡 綾部町	斯道の大家を聘して熱誠なる講習を修了した 参加百名
同 十一日	同	同 志賀郷村	時々體操唱歌等に依り心氣一轉を試みつゝ面白く眞面目に修了した
同 十二日	同	天田郡福知山町	前項に同じ 参加八〇
同 十一、十二日	婦人文化講習會	與謝郡 加治町	婦人の品位を高め生活改善に關する智識を授けながら融和の目的を達した 五十三
同 十二、十三日	同	中 郡 長善村	兩日五尺の積雪を熱心に集合し實修した 参加 九二
同 十四、十五日	同	同 周枳村	作法、洗濯に關する智識を習得した 参加七三
同 十七、十八日	同	同 八幡町	同じ 参加七一
同 十八、十九日	青年一夜講習會	同	松岡、小衛、森三氏の熱心なる講義に依り効果を擧げた殊に協議員の幹旋はよく行き届いた 参加六〇
三月一、二日	婦人文化講習會	船井郡 岡部村	生活改善上有益なる浸抜法洗濯に關する講習を受け親善の度益々加ふる 参加八三
同 三、四日	同	同 桐ノ庄村	前項に同じも兩者殊に融和して共同作業を爲した 参加九五
同 五日	同	何鹿郡 山家村	眞摯にして眞面目な態度は能く親善の意を汲み目的を達した
同 七、八日	同	同 佐賀村	時間を勵行して教化的行事の都てを完了した大震ありしも出席落ちず修了参加一〇一

(3) 講演會

同九、十日	同	天田郡下六人部村	大雨中を効果を得た 参加八〇
十五年二月十二、十三日	融和大講演會	相樂郡中和東村	森氏の熱烈なる講演により一般民に多大の感動を與へた 参加三〇〇
同 十六日	同	同 井手村	地方的色彩の濃厚なるにも拘らず熱心に緊張裡に散會効果を収め得た
同 二〇日	同	同 麻氣村	活動寫眞を應用して講演し趣旨普及上効を擧げた 参加三四〇
同 二一、二二日	同	同 富本村	森、武内兩氏は熱辯を以つて迷妄の除却上相當の効果があつた 参加六九
同 二五日	同	同 綾部町	盛大なる會合にして地方の有志、團體幹部等非常に盡力した 参加五〇〇
同 二六日	同	同 志賀郷村	村内の戸主は全て會合し益する處多大であつた。 参加一七〇
同 二七日	同	同 舞鶴町	地方の人々多數會合し元氣充滿せる融和の現實を表した 参加六〇〇
三月八日	融和大講演會	同 餘内村	兩者の意志の疎隔を却け美しき親善の功績を収むべく森囑託の講演に依り多大の感動を與へた 参加八〇〇
同 九日	同	同 河守村	同項に同じ 参加八五〇
同 十日	同	同 加治町	同 参加三〇八
同 十一日	同	同 養老村	同 参加二〇〇
同 二〇日	同	京都市千本上立賣	一般青年壯年其他多數集り好成绩を収め得た 参加二五〇
同 二八日	同	同 川上村	互ひに助け合ひつゝ生活の樂しみを味ひ得る世界を展開せよと雄辯を奮ひ、聴衆亦非常に感動した 参加三〇〇
五月五日	融和事業講習會	同 吉野村	兩者の融合に依つて現淨土建立を期し得べしと説去り、以つて一般に多大の印象を與へた 参加八三
同 二四日	通俗講演會	同 竹田村	斯道の大家を聘して融和促進上多大の効果があつた 参加四〇〇
七月二一日	融和事業講習會	同 笠置村	同 参加二四〇
同 二三日	同	同 三木村	同 参加二五二
同 二六日	同	同 磯田村	同 参加三二五

第三章 融和團體の活動



開催月日	開催地	協議事項	状況
同二八日	何鹿郡 物部村	同 參集八〇	
同二九日	同 以久田村	同 參集一三二	
七月三〇日	融和講演會	親和の効果大に舉つた 參集二〇〇	
八月二八日	創立記念講演會	熱狂的諸家の談話に依り緊張せる中に相當効果があつた 參集五〇〇	
九月四、五日	融和講演會	何鹿郡 物部村	參集一一〇
同十六日	同	一般に熱心なる態度を以て終了した 參集五二〇	
十月十四日	同 綾部町	同じ状況 參集一五〇	
同二六日	同 志賀郷村	地方の有力者多數集合好成绩を収めた 參集二三〇	
十二月十日	融和事業講演會	武内、森兩氏の積極的高説に依り一般人の感ずる者多數 參集一〇〇〇	
同十一日	同	前項に略ぼ同じ真剣な會合であつた 參集五〇〇	
同十三日	同	同じ 參集四〇〇	
同十四日	同	非常に盛會なるのみならず最も静かに終了した 參集六〇八	
十二月十一日	京都府男女兩師範學校	聴衆七九〇名 効果多大なり	
昭和二年一月十六日	融和促進講演會	今江署長の熱心なる講演があつた 參集者は運送業組合員一五〇	
同二三日	同	青年團其他村民 參集一二〇	
一月二六日	同	村内婦人會處女會員等に對し講演 參集五〇〇	
二月二〇日	同		

(4) 宣

施行月日	施行地	方法	状況
十五年十二月	府下各青年團長	文書宣傳	「融和運動」紙五〇〇部を無代配付し多大の効果を舉げた
十二月	府下市町村長	小冊子印刷	「講習會について」と題する小冊子を印刷し(一千部)青年一夜講習會等に用ひ親善上多大の成績を挙げた
昭和二年一月	同一般	文書配付	「維新前後の解放運動」一、二〇〇部を購入協議員並各代表者へ配付し融和思想を普及した

(5) 會

開催月日	開催地	協議事項	状況
十五年一月十七日	融和事業協議會出席	兵庫縣済和會	本會より雪澤社會課長森幹事淺山理事出席
一月三〇日	親和會協議員會	綴喜郡 由邊町	現在の状況に鑑み郡内に於ける融和促進上適切な方法如何
二月十五日	同	中郡 峯山町	融和事業進展に伴ふ留意すべき點如何
二月十二日	懇談會	相樂郡中和東村	融和事業の件通婚問題に關する件
同十六日	同	綴喜郡 井手村	本年度事業計畫豫算に關する件等
同十七日	同	同 都々城村	前項に略ぼ同じ 參集五三
同十八日	近府縣融和團體懇談會出席	大和同志會	前項に略ぼ同じ 參集四九
同二〇日	融和懇談會	船井郡 麻氣村	本會より森囑託出席す
同二五日	協 議 會	何鹿郡 綾部町	相互の意見を交換し今後の事業施行に關する懇談を遂ぐ三六
同二六日	同	同 志賀郷村	參集六〇
同二七日	同	加佐郡 舞鶴町	參集六七
二月二十八日より	融和事業協議會出席	東京市に於て	參集六一
三月三日	支部役員懇談會	天田郡福知山町	吉岡理事出席
同二五日	理事會	京都府 廳	參集四〇
同二八日	懇談會	熊野郡 川上村	熱心に會長提出の事項に付き附議 參集九

第三章 融和團體の活動



開催月日	名称	開催地	状況
四月二十九日	第三回協議員大會	京都市公會堂	出席者四百餘名。諮問事項「現下の状況に鑑み融和團體として施設すべき適切な事業如何」打ち明け合った台合新き意見も出て盛會、四八 募集四六
五月二十四日	懇談會	紀伊郡 竹田村	本會より森幹事出席す 熱心に事業施行に關する打合せ等あり和氣調々裡に終了した 参加一三
同二十六日	地方改善協議會	京 都 市	本會長提出の協議事項に付き熱心に討議 参加五九
六月二日	近畿府縣融和團體聯合會出席	大 阪 市	前項に同じ 参加四五
七月二日	懇談會	相樂郡 笠置村	本會より幹事二名出席す
八月一日	協議員會	南桑田郡龜岡町	前項に同じ 参加四五
同一日	融和懇談會	與謝郡 本庄村	熱心に事業施行に關する打合せ等あり和氣調々裡に終了した 参加一三
同十二、十三日	同	中 郡 長善村	本會長提出の協議事項に付き熱心に討議 参加五九
九月二十九日	近畿府縣融和團體聯合會	和歌山縣會議事堂	前項に同じ 参加四五
昭和二年一月十四日	協議員會	船井郡 岡部町	本府社會課長島田昌勢氏幹事森幹事出席 参加七九
同二日	同	何鹿郡 綾部町	前項に同じ眞面目に討議する處あり 参加六八
同四日	同	加佐郡 御鶴町	新年初頭に於て意見の交換を計る 参加三二
同五日	同	同 新舞鶴町	本郡協議員の大部分の出席あり好成績を得た 参加三八
同六日	同	同 新舞鶴町	本會幹事森幹事出席
二月一日	同	紀伊郡 伏見町	同 参加六二
同十三日	同	天田郡福知山町	同 参加六二
一月十二日	同	南桑田郡龜岡町	同 参加六二
同九日	同	船井郡 田邊町	同 参加六二
三月一、二、三日	融和問題國策樹立協議會	京都市に於て	同 参加六二

(6) 其他

(イ) 婦人融和見學團

開催月日	名称	開催地	状況
十五年二月十四日	婦人見學團	熊 野 郡	兩者婦人を一團となし饗食、行樂を共にして親善の實を擧げ美行等も亦少くなかつた 五〇人
二月十七、十八日	同	天 田 郡	兩者婦人の道連れにより啓發さるゝ一般婦人少からず互に精ひ親しみを増した 四五人
三月十五、十六、十七日	同	中 郡	京都市内各所を見學 五八人
四月二日より四日迄	同	船井郡 國部村	島根縣下を視察し歸村後生活改善の實績を収めた 一〇人
同九、十日	同	何 鹿 郡	桃山陵を参拜し知事官邸に於て茶菓の接待を受け喜々として解散 六〇人
五月四日より四日間	同	船 井 郡	島根縣下熊野村を見學し、相當の感激を得て歸村後非常に融和の實績を擧げた 参加三二人
六月三日	同	久 世 郡	京都市内各所を見學し一日の行樂を共にした 五二人

(ロ) 差別事件の調停

大正十五年九月四、五日 氏子加入に關する件其他 何鹿郡物部村 多年の隔執を兩者の意志疏通を得て無事に解決した 本會幹事出張斡旋した

(ハ) 職 轉 讓

十五年 四月 教員採用の件 天田郡下豊村 小學校教員採用方に付き本會より斡旋

(ニ) 支 會 設 立

昭和二年一月二十日 船井郡支會 船井郡國部村 本郡は包含町村十四ヶ所に及び總戸數六〇八人口三二〇九人にして融和事業施設の重要なるに依り活動本陣とした



大正十五年八月

南桑田郡支會

南桑田郡會同町

本郡協議員が共同して融和事業施行に備ふるため之を設立した

(水) 宗教團體並教化團體との提携

大正十五年十月本會は融和問題の目的貫徹のため社會に於ける樞要の地位にある宗教家等の教化事業に従事する個人又は團體の諒解を得、又其の熱誠と助力を俟て事業促進の陣容を整ふるは最も緊要の事であり効果も認めらるゝを以つて本會々長たる濱田知事より京都佛教護國團及各郡佛教團體、教化團體、其他へ各依頼状を出し希望事項を添へた、其後同會に於ける各種會合等も各々自主的に進んで出席を申込み熱心に研究する等其の運動に付きて見るべきものがあつた。

(一) 京都府融和團體聯合會設立

京都府下には從來親和會の外に西本願寺一如會、東本願寺眞身會、公平會、聖訓奉旨會關西支部の四團體があるが大正十五年十一月本會の主唱にて會合を頂けた結果本聯合會の組織をなし將來京都府下に於ける事業促進のため聯絡提携することとなり第一回協同事業として農閑期融和大講演會、兩京都府師範學校、女學校に於て趣旨普及の講演會を續行開催した。

(二) 神奈川縣青和會

(1) 講習會

開催月日	會名	開催地
大正十五年一月十七日	六浦莊婦人講習會	久良岐郡六浦莊村
大正十五年二月十六日	懇談會	三浦郡北下浦村
大正十五年三月十五日	一夜講習會	愛甲郡小鮎村
大正十五年四月二十四日	同上	中郡桑野町
大正十五年四月二十七日	同上	足柄上郡川村

狀

況

出席者七十六名河井田上兩鎌倉高等女學校教諭の婦人の修養並に家事及和服裁縫利用法に就ての講演、中村常務理事の融和問題に關する講演、最初の試みであつたが良好なる効果を收め得た。北下浦支部發會式後引續き活動寫眞を公開したる後、會員集合して懇談會を行ふ。小鮎支部發會式後引續き開會、安井副會長、中村常務理事出張、同地に於ける最初の融和問題の講演をなす。村内有力者等出席者約百二十名。安井副會長、中村常務理事、青木理事等出張講演をなす。町内有力者並に支部會員等出席者百二十名、晚餐休憩後懇談會を開催す。町内有力者並安井副會長、中村、中津川兩理事、植木、桑野支部長等出張、同地に於ける最初の融和問題の講演をなす出席者百名、晚餐休憩後懇談會を開催す。

大正十五年五月二十二日	同上	三浦郡北下浦村
大正十五年五月二十三日	同上	三浦郡浦賀町
大正十五年八月一日	鎌倉夏期講座	鎌倉郡鎌倉町
大正十五年八月二日	同上	同上
大正十五年八月三日	同上	同上
大正十五年八月十五日	桑野支部講習會	中郡桑野町
大正十五年八月十九日	同上	同上
大正十五年八月二十日	同上	同上
昭和二年二月十五日	一夜講習會	鎌倉郡濱谷村
昭和二年四月二日	同上	愛甲郡小鮎村
昭和二年六月六日	婦人講習會	中郡桑野町

第三章 融和團體の活動

中村常務理事出張講演をなす。當日大雨の爲め出席者約二十名なりしも心より打働けて懇談をなす。浦賀支部發會式後引續き開會、同地に於ける最初の融和問題の講演をなす。講師は小柳會長、中村青木兩理事にて出席者八十名晚餐休憩後懇談會を開催す。夏季全國の各地より鎌倉に避暑し來る智識階級に對し融和運動に關する思想普及の目的を以つて之を開催す。午前八時より約三時間田子一民氏水の「同朋愛の體驗」の講演あり聴講者男女合せて八十八名午後は隨意に海浴、夜間は開覺寺中法梅院にて十五名合宿懇談會を開く。午前八時より約三時間宇野圓空氏の「最近の宗教的傾向」の講演あり、聴講者男女合せて百十名、午後及び夜間の行事は、前同斷。午前八時より約三時間久布白落貞氏の「現代の婦人問題」の講演あり、聴講者男女合せて百十名、午後及び夜間の行事は、前同斷。武廣、中村兩理事交互出張講演をなす出席者毎日四十名夜間は講師も共同宿泊をなし、早朝國民體操を行ふ。

本年度内に於ける本會主催の第一回一夜講習會を濱谷小學校上分教場に於て開催し中村常務理事の「融和問題に對する所感」の講演あり。出席者百餘名晚餐休憩後懇談會を開催す。中津川、中村兩理事出張し融和問題に就ての熱心なる講演あり。會者五名深甚なる感銘を與ふる所があつた。當日の辨當は特に處女會員の諸姉の努力奉仕により用意されたのであつた。夜間は本杉重三郎氏方にて懇談會を開き五十名の有志出席し仲々眞剣な意見も出て互に資益する所が多かつた。

中村常務理事及び臨立田婦人授産場の八木橋キイ子女史が出張した。八木橋氏は「婦人の使命」に就て約一時間半、中村理事は「機杼求道の旅人として」の題下に二時間有餘に互に極めて熱烈なる講演をなした。當日晝食の給仕には男子青和會員の方が数名奉仕され和氣藹々たるものがあつた。



昭和十二年 一夜講習會

三浦郡浦賀町

昭和十二年 同上

三浦郡北下浦村

昭和十二年 同上

橋樹郡宮前村

浦賀會館に於て開催、中津川、中村兩理事が出席した。横須賀支部より...

(2) 講演會

開催月日 會名 開催地

大正十五年 一月十六日 六浦莊講演會 久良岐郡六浦莊村

大正十五年 一月二十日 上泰野村處女會總會 足柄上郡上泰野村

大正十五年 三月十四日 融和問題講演會 中郡平塚町

大正十五年 三月二十日 同上 中郡泰野町

大正十五年 四月二十五日 六浦莊講演會 久良岐郡六浦莊村

中村常務理事の講演あり。聴講者約五十名、講演終了後懇談會を開く。

聴講者約百二十名同村處女會より招聘に依り、中村常務理事出席し、具體的なる融和問題講演會をなし多大の感銘を興へたり。

大正十五年 八月二十一日 六浦莊懇談會 同上

大正十五年 十月二十九日 北下浦懇談會 三浦郡北下浦村

昭和十二年 三月十九日 北下浦女子青年會總會 三浦郡北下浦村

(3) 宣傳

施行月日 施行地 方法

大正十五年 二月六日 三浦郡北下浦村 活動寫眞を利用して融和思想の徹底を計る

大正十五年 十月二十日 鎌倉郡瀬谷村 同上

大正十五年 十月二十九日 三浦郡北下浦村 同上

(4) 助成事業

施行町村 施行事業 事業費 補助費

三浦郡北下浦村 發會式、講演會、懇談會 二〇〇〇

愛甲郡小站村 同上 二〇〇〇

中泰野町 發會式、講演會、懇談會、活動寫眞會 二〇〇〇

橋樹郡宮前村 發會式、講演會、懇談會、活動寫眞會 二〇〇〇

三浦郡浦賀町 發會式、講演會、懇談會 二〇〇〇

鎌倉郡瀬谷村 發會式、講演會、懇談會 二〇〇〇

大正十五年二月六日該支部の發會式の際には講演會並に懇談會費として交付す















融和事業年鑑

開催地	開催月日	協議名	協議事項	状況
有馬郡有馬町公會堂	昭和二年一月十九日	同	同	二〇〇人
多紀郡古市村小學校	同 廿三日	同	同	一五〇人
同 南河内村小學校	同 廿四日	同	同	八〇人
養父郡廣谷村小學校	同 二十九日	同	降雪五尺に及びし爲懇談會に變更せり	同 三〇人
同 八鹿町公會堂	同 三十日	同	同上	一五人
城崎郡日高町役場	同 三十一日	同	養蠶講習所生徒を主とす	同 八〇人
同 香住町公會堂	二月 一日	同	戸主會 同	一五〇人
飾摩郡鹿谷村小學校	同 十日	同	戸主會及在郷軍人を主とす	同 二五〇人
同 城南村小學校	同 十一日	同	同上	一二〇人
同 飾摩町小學校	同 十二日	同	同	一二〇人
揖保郡東栗柄村小學校	同 十六日	同	同	四〇〇人
同 林田村役場	同 十七日	同	戸主會	一〇〇人
同 太市村小學校	同 十八日	同	同	一五〇人
赤穂郡阪越村小學校	同 十九日	同	同	一二〇人
同 赤松村照雲寺	同 廿日	同	同	三五〇人
佐用郡中安村小學校	同 廿一日	同	同	五〇人
同 三日月村小學校	同 二十二日	同	同	六〇〇人
(4) 會				
神戸市縣公會堂	大正十五年 一月十二日	近畿中國融和問題協議會		中央融和事業協會主催にして同會より會長以下出席した
奈良市縣議事堂	二月十八日	關西融和問題協議會		同會より内海囑託出張
東京市	二月廿八日	全國融和團體協議會	國策確立に關する協議	同會より松岡常務理事内海、軌保囑託出張

明石市公會堂	三月 四日	支部總會	豫算決算講演會	郡内有識者聴衆二五〇人
神戸市	同 十三日	第三回委員會	豫算決算其他	委員百餘名來會終日協議した
同	同 十四日	第三回大會	融和運動の進展に就て其他	講師は高田保馬、木邊孝慈兩氏聴衆一三〇〇人
松江市	同 十七日	中國融和團體協議會	融和運動の進展に就て其他	同會より松岡常務理事金子囑託出張
朝來郡牧田村	四月十八日	支部總會	豫算決算(喜田博士出演)	郡内一般の有力者集る
加古郡加古川町	五月五日	同	豫算決算	聴衆 三〇〇人
佐用郡佐用村	同 同	同	同	同 三〇〇人
加東郡社町	同 廿三日	同	同	同 二五〇人
津名郡志筑町	六月三日	同	同上及職業講習製品々評會	同 三〇〇人
大阪府	同 二日	關西融和團體協議會	差別的觀念の撤廢を徹底的に宣傳することを決議す	同會より内海囑託出張
大坂府	同 二日	同	豫算、決算	郡内一般の有力者を集む
大坂府	同 二日	同	大谷派眞身會主催し懺悔運動の可否に就て論議した	同 四〇〇人
三原郡市村	同 十八日	同	融和團體として最も留意すべき點其他	同 二〇〇人
京都府	五月廿八日	關西融和事業協議會	官公吏採用の件婦人の融和促進に關する施設如何其他	同會より内海、金子囑託出張
和歌山縣議事堂	九月廿八日	同	決算副會長協議會員募集、フィルム作製、其他	委員八十餘名出席協議した
廣島縣嚴島町	十月十日	中國六縣融和團體協議會	融和事業に就て協議	同會より小田主事、内海囑託出張
神戸市	大正十五年 十月十五日	十五年度第一回委員會	各種團體連絡掛其他	同會より小田主事、内海囑託出張
神戸市	昭和二年 一月十五日	職員會議		
同	一月廿五日	協議會		

第三章 融和團體の活動



加古郡加古川町	昭和二年三月十八日	第二回委員会	豫算及事業報告會員募集 委員七十九名出席
同	同 十九日	第四回大會	講師として田子一民大谷 豊沼兩氏出演 縣下一般より集合聴衆一〇〇人 委員二〇名出席同會より内海囀 託出張
美濃郡三木町	三月廿九日	支部委員会	

(5) 其他の施設

(イ) 特殊講演會

開催地	開催月日	會名	状況
揖保郡龍野町圓光寺	大正十五年七月三十日	講演	聴衆 三五〇人
御影師範學校	昭和二年二月十日	同	七〇〇人
姫路師範學校	二月十二日	同	六〇〇人
明石女子師範學校	同 十四日	同	三三〇人
神戸佛教學院	三月八日	同	三五〇人
(ロ) 活動寫眞講演會			
津名郡志筑町専修寺	大正十五年四月二十一日	活動寫眞講演會	聴衆 三〇〇人
三原郡八木村公會堂	同 二十三日	同	三〇〇人
有馬郡三輪村小學校	同 二十七日	同	五〇〇人
水上郡久下村如來寺	五月一日	同	三〇〇人
赤穂郡若狹野村圓立寺	同 九日	同	四〇〇人

開催地	開催月日	會名	状況
加古郡鳩里村小學校	同 十一日	同	五〇〇人
加西郡下里村小學校	同 十三日	同	五〇〇人
美濃郡濱阪町劇場	九月四日	同	四〇〇人
三原郡八木村小學校	同 六日	同	七〇〇人
多可郡中町小學校	同 二十五日	同	七〇〇人
美濃郡吉川村小學校	昭和二年三月四日	同	同
同 淡河村小學校	同 五日	同	同

(ハ) 差別事件

開催地	開催月日	會名	状況
明石郡平野村	氏子問題山林問題其他	解決	
水上郡生郷村	氏子問題	同	
印南郡平莊村	同	同	
朝来郡中川村	氏子問題人事問題	同	
三原郡加茂村	同	未解決	
美濃郡香住町	湯屋問題	解決	

(ニ) 雑誌及パンフレット發行

發行月日	部数	備考
十五年一、二五	二二	一〇、〇〇〇 配付先
三、一五	二三	一〇、〇〇〇 各官公署委員中等學
三、二五	二四	一〇、〇〇〇 校全函府縣廳全函職
六、一五	二五	一〇、〇〇〇 和國體縣下各市町村

第三章 融和開化の活動

發行月日	部数	備考
六、二五	二五	一〇、〇〇〇 縣會議員市會議員紳
七、二五	二七	一〇、〇〇〇 戶市内青年團縣下各
八、一五	二七	一〇、〇〇〇 小學校同婦人會衆議
一〇、二五	二九	一〇、〇〇〇 院議員其他



昭和事業年報

一、一五三〇  
 二、一、二五三〇  
 三、一、一五三二

二年二月  
 パンフレット 四、〇〇〇  
 此の外融和運動毎月三〇〇部購入適宜之を配布セリ

(六) 産業奨励

施行市町村	施行事業	事業費	補助費	備考
赤穂郡 有年村	庭吹機購入	四六〇	二〇〇	
安栗郡 城下村	同上	六〇〇	二〇〇	
安栗郡 安師村	膠製造所	四、〇〇〇	一、三〇〇	
有馬郡 本庄村	製糖機購入	一、六〇六	五〇〇	
多可郡 中町	動力農具購入	一、三四四	三〇〇	
三原郡 倭文村	繩製機購入	八七四	三〇〇	
揖保郡 越部村	製糖機購入	四三〇	二〇〇	
合計		九、三一四	三、〇〇〇	

(七) 教育奨励

施行市町村	交付金額	補助員數	補助別	備考
神戸市	三二〇	一一	一〇	清和洋服學校生徒一人に對し三〇圓高小生徒同上二〇
安栗郡 神戸村	六〇	二	二	高小一年 二名
佐用郡 中安村	八〇	四	二	同上 二名
阿那郡 西庄村	一三〇	五	三	補助學校 二名
朝來郡 牧田村	三〇	一	一	高小一年 二名

施行市町村	交付金額	補助員數	補助別	備考
阿那郡 桑瀬町	一三〇	七	二	同上 二名
明石郡 岩岡村	五〇	二	一	同上 二名
阿那郡 押部谷村	三〇	一	一	補助學校 二名
阿那郡 玉津村	一八〇	三	六	同上 六名
津名郡 青波村	三〇	三	三	補助學校生徒三名
阿那郡 都志町	九〇	八	七	高小二年 七名
阿那郡 鮎原村	二〇	一	一	同上 一名
阿那郡 山田村	七〇	一	一	補助學校生徒七名
美父郡 健屋村	一〇	一	一	同上 一名
永上郡 和田村	六〇	四	二	高小二年 二名
印南郡 伊保村	一一〇	四	二	高小一年 二名
川邊郡 多田村	三〇	一	一	高小一年 一名
水上郡 佐治町	二〇	一	一	同上 一名
美父郡 大蔵村	二〇	一	一	同上 一名
赤穂郡 上郡町	一六〇	八	八	同上 八名
阿那郡 有年村	四〇	二	二	同上 二名
川邊郡 立花村	二〇	一	一	同上 一名
揖保郡 越部村	三〇	一	一	同上 一名
合計	一、七二〇	八二	五四	清和洋服 一〇、高二年 一三、高小一年 三三、補助 二五、商業 一

(八) 其他

第三章 融和團體の活動



一、文書宣傳の事業として左記の如き文書を關係者に送附し融和促進のためその努力を促した。

拜啓益々御清邁奉賀候扱て從來諸佛事に際し一部々落寺院と一般部落寺院とは各別に行事を爲すが如き慣習と相成居候ことは融和の促進上甚だ遺憾に存居候處今同排保郡に於ては双方の間に於て報恩講等の場合は從來の慣習を破り相互に參勤し融和の實現を期することと相成候由洵に時宜を得たることと存候に就ては貴郡に於ても此際一般民衆に施を垂るゝの思召を以て相互參勤相成候禮致度各位の御座慮に依り實現するを得ば洵に幸甚の至りに奉存候此段特に御考量相煩如斯御座候 敬具  
大正十五年十月二十五日

追而御協議の結果何分の御回答相煩度申添候  
右に對し關係者の一人本派本願寺赤穂北組々長赤松普誠氏より左の如き回答があつた。

拜復 愈々御清邁之條大慶至極に奉存候扱て先般御申越に相成候融和の件に付ては當赤穂北組に於ては從來既に融和の實を擧げ何事に付ても差別ヶ間敷事御座なく殊に毎年一回懇話會を開き共に相會して互に胸襟を開き懇談致居候次第に候間此旨御了承相成度候尙相互參勤の事に就ては當組は他地方の如く參勤法中の團體標の組織をなまず擅家入交等の事情により各寺住職は個人的申合せの上參勤致す事に相成居候それ故各寺に於ける出動法中各寺夫々相異り居候次第に候併し此際御申越之出動は一般融和促進の上に於て甚だ結構の事と存候實は昨日組内會開催其席上に於ても右に

付談合致し今後事情の許す限り相互參勤致すことに相成候間右御了承有之度候先は右御回答旁々一筆如斯に御座候 勿々  
大正十五年十一月九日

二、兵庫縣清和會協議會に提出せる協議事項は左の如くである。  
1. 大正十五年三月十三日提出 (大正十四年度委員會)

- (イ) 會長推薦に關する件 (山形知事就任す)
- (ロ) 前會長に對し感謝狀贈呈の件
- (ハ) 大正十三年度決算承認の件
- (ニ) 大正十三年度事業報告の件
- (ホ) 大正十五年度豫算の件
- (ヘ) 規程改正の件

諮問案

一、本會の活動方法に就て

2. 大正十五年六月四日 (職員會議)

- (イ) 會員募集に關する件
  - (ロ) 郡廢後の支部を如何にするか
  - (ハ) 委員改選の件
  - (ニ) 婦人委員設置に關する件
  - (ホ) 各郡に囑託講師を置くの可否
  - (ヘ) 融和デー設置に關する件
  - (ト) 差別言動取締法制定に關する件
3. 同 九月十七日 (職員會議)
- (イ) 融和進展の状況及融和進展に伴ふ留意すべき傾向並に之か對案に關し拜承したし

(ロ) 混住實現の適切な方法に就て承りたし

(ハ) 全國融和聯盟に關する件

4. 同 十月四日 (大正十五年臨時委員會)

- (イ) 大正十四年度決算承認の件
- (ロ) 大正十四年度事業報告の例
- (ハ) 副會長推薦に關する件 (佐藤學務部長就任、八木内務部長は顧問となる)
- (ニ) 本會と青年團婦人會處女會と連絡提携に關する件
- (ホ) 會員募集に關する件
- (ヘ) 支部に關する件
- (ト) 融和に關するフィルム調製の件 (委員提出)
- (チ) 先遣地視察に關する件
- (リ) 納税成績の良法に關し承りたし
- (ヌ) 各郡に囑託講師を置くの件
- (ル) 支會設置に關する件
- (ヲ) 融和の實行を期する爲縣下一圓に互り市町村支會を開催し

5. 昭和二年一月廿五日 (懇談會)

- 縣視學一四人 社會教育主事補二人
- 學務部長一人 社會教育主事 一人
- 學務課主席屬一人 本會職員 六人
- (イ) 本會事業の内教育家青年團等に對して如何にして本會の趣旨を普及せしむべきか適切な方法如何
- (ロ) 被差別者の就職に關する件

第三章 融和團體の活動

- (ハ) 青年講習會、指導者講習會に關する件
- 6. 昭和二年三月十九日 (大正十五年度委員會)
- (イ) 大正十五年度事業報告の件
- (ロ) 理事改選に關する件
- (ハ) 昭和二年度豫算の件

(四) 埼玉縣社會事業協會

事業部

(一) 講習會

三月八日から三月十二日まで五日間、比企郡松山町縣立中學校に於て社會事業講習會開催。講習員二百三十六名。講師及演題左の通り。

演題	講師
教化問題	加藤 咄 堂氏
方面委員制度	小澤 一 氏
社會問題	綿貫 哲 雄氏
農村問題	氣賀 勘 重氏
社會事業に就て	矢吹 慶 輝氏
融和問題	田子 一 民氏
思想問題	深 作 安 文氏







融和事業年報

- 一五、一〇、九 比企郡八和田村小學校
- 一五、一〇、三一 兒玉郡東兒玉村小學校
- 一五、一〇、一六 大里郡榑澤村小學校
- 一五、一一、一四 兒玉郡兒玉町遊藝社

(五) 群馬縣融和會

配布月日	名稱	方法	狀況
一五、五、二四	融和促進會	會員に郵送す	部數三、〇〇〇
一五、五、一〇	現代思想批判	同	同 一、五〇〇
一五、七、一	會報	各府縣融和團體及會員に送る	

(1) 講習會

開催月日	會名	開催地	狀況
自四月十五日	眞綿製造講習	新田郡世良田村小學校	處女四〇名
自九月三十日	家庭經濟講座	山田郡廣澤村小學校	處女六〇名
自十月二日	眞綿製造講習	佐波郡三郷村小學校	處女四〇名
自十月九日	竹細工講習	碓氷郡里見村製絲場	男子四〇名
自十月十九日	短期農村經濟講習	勢多郡芳賀村善勝寺	青年幹部四一名
自十一月十三日	青年一夜講習	北甘樂郡小野村長學寺	青年、役場、小學校、有志一五〇名
自一月九日	婦人經濟講座	佐波郡境町小學校	處女幹部六〇名
自一月十九日	竹細工講習	佐波郡三郷村小學校	男子三〇名
自一月二十日	青年一夜講習	勢多郡新屋村善昌寺	青年幹部、役場、小學校、有志八〇名
自一月二十二日	竹細工講習	新田郡世良田村小學校	男子四五名
自一月二十四日	處女一夜講習	北甘樂郡福島町靈雲院	處女幹部、役場、小學校、五〇名
自二月一日	竹細工講習	新田郡世良田村小學校	男子三五名
自二月十日	處女一夜講習	北甘樂郡小野村民家	處女六〇名
自二月十一日	青年一夜講習	勢多郡東村大蒼院	青年五〇名

(2) 講演會

開催月日	會名	開催地	狀況
自二月十六日	青年一夜講習	群馬郡六郷村小學校	青年、役場、小學校七〇名
自二月二十一日	青年一夜講習	勢多郡宮城村赤城寺	青年、役場、小學校、有志七〇名
自二月二十三日	經濟講座	群馬郡澁川村民家	青年男女、役場、小學校六〇名
自二月二十七日	家庭經濟講座	碓氷郡八幡村小林山	處女九一名
自三月三日	竹細工講習	邑樂郡永樂村小學校	男子四〇名
自三月四日	青年幹部講習	邑樂郡伊奈良村板倉	青年幹部五〇名
自三月十二日	青年一夜講習	碓氷郡原市町久昌寺	青年幹部六〇名
自三月十三日	處女一夜講習	碓氷郡白井町寺院	處女幹部六〇名
自三月十六日	青年一夜講習	勢多郡大胡町長善寺	青年幹部、役場、小學校、六〇名
自三月十九日	處女一夜講習	北甘樂郡福島町田條公會堂	處女、役場、小學校、八〇名
自三月二十二日	處女一夜講習	北甘樂郡福島町君川寺院	處女、役場、小學校、六〇名

開催月日	會名	開催地	狀況
四月三日	融和講演	邑樂郡千江田村小學校	青年、役場、小學校一五〇名
九月二十五日	同	吾妻郡伊勢村小學校	青年男女二四三名
九月三十日	同	群馬郡金古町小學校	教員一五〇名
十月三日	同	桐生市新宿公會堂	戶主、市役所、小學校等、六〇名
十月六日	同	碓氷郡八幡村少林山	青年幹部六〇名
十月七日	同	同	青年幹部八〇名
十月九日	同	同	處女幹部七〇名
十月十五日	同	新田郡生品村小學校	戶主、役場、小學校八〇名
十月二十七日	同	高崎市南小學校	戶主、四〇名
十一月二日	同	山田郡廣澤村小學校	戶主、役場、小學校八〇名

第三章 融和團體の活動



昭和事業年鑑

開催月日	協議事項	協議事項	協議事項
十一月三日	北甘樂郡丹生村小學校	戸主、役場、小學校二〇〇名	
十一月四日	北甘樂郡吉田村小學校	戸主、青年男女七〇名	
十一月十五日	勢多郡宮城村大前田集會所	戸主、青年男女、七〇名	
十一月二十三日	新田郡世良田村小學校	戸主、青年二〇〇名	
一月二十六日	勢多郡富士見村時澤小學校	青年男女二五〇名	
一月二十七日	群馬郡豊稻村小學校	戸主、一〇〇名	
二月二十九日	佐波郡茂呂村集會所	戸主、有志八〇名	
二月三十日	多野郡新町役場	報徳社員一八〇名	
三月九日	吾妻郡太田村小學校	生徒一五〇名	
三月十三日	前橋明治裁縫學校	青年八〇名	
三月十七日	甘樂郡大筒野村小學校	青年男女一八〇名	
三月十七日	北甘樂郡妙義町小學校	戸主、八五名	
三月二十四日	新田郡世良田村小學校	青年六〇〇名	
計	群馬郡新高尾村及倉賀野町小學校		

(3) 會

開催月日	協議事項	協議事項
三月二十日	理事會	大正十五年歳入歳出豫算
十月十五日	評議員會	緊急役員選挙、本會事業實施の件
十一月二十日	評議員會	評議員會及總會開催の件
同	同	会務報告の件、理事補缺選挙の件
同	同	会務報告の件

(4) 其他の施設

開催月日	協議事項	協議事項
十月二十六日	融和協議懇談會	戸主、役場、小學校四五名
十一月十九日	同	各郡市部落代表各一名、外縣關係者計二一名
一月十六日	同	處女幹部三〇名
二月十四日	同	戸主、有志、役場、小學校六〇名
同	同	小學校及教員一二名
三月十六日	同	青年幹部一〇〇名
同	同	戸主、役場、小學校一二〇名
同	同	戸主、青年二〇〇名
同	同	戸主、役場、小學校一五〇名
同	同	青年會、戸主一五〇名
同	同	戸主、役場、小學校 五〇名
同	同	戸主、青年男女、役場、小學校八〇名
同	同	戸主、役場、小學校 七〇名
同	同	戸主、青年男女、役場、學校一五〇名
同	同	青年男女、有志 四〇名
大正十五年九月十三日	計	一五回

(六) 大和同志會

(イ) 婦人文化講習會

開催月日	協議事項	協議事項
自四月十九日 至同 二十九日	南葛城郡被上村柏原	四四 芦津さと

第三章 融和團體の活動



融和事業年鑑

自五月十二日	至同 十三日	宇智郡野原村	二八	小田 清井	同
自同 十四日	至同 十六日	南葛城郡葛城村	二二	同	同
自同 十七日	至同 十九日	北葛城郡上牧村	五九	同	同
自同 二十一日	至同 二十三日	北葛城郡陵西村	三八	同	同
自同 二十四日	至同 二十六日	磯城郡大福村	五七	同	同
自同 十月 十日	至同 十二日	南葛城郡葛城村	二五	同	同
自同 十月 十三日	至同 十五日	同 郡 大正村	三五	同	同
自同 十月 十六日	至同 十八日	同 郡 秋津村教善寺	二三	同	同

(四) 融和事業講習會  
 大正十五年十一月十八日より五日間、磯城郡初瀬町長谷寺に於て中央融和事業協會及奈良縣社會課と同會の共同主催の下に開催

(2) 講習會と懇談會

開催月日	會名	場 所	來會者數	講 師	摘 要
四月 七日	講習會	高市郡丹生谷	二〇五	中川 義雄	融和促進に關する
同 二十九日	同	大正村鎌田	六〇〇	同	同
七月 十八日	同	秋津村室	一五〇	同	同
八月 十六日	懇談會	生駒郡生駒町	一二〇	吉川吉次郎	同
同 二十八日	講習會	同	同	同	同
同 二十八日	同	櫻井町小學校	五〇〇	田子 一民	同
同 二十八日	同	郡山町公會堂	三七〇	佐伯 良	解放令紀念の爲め融和促進
同 二十八日	同	奈良市保連町	三八	同部 宗城	同
七月 十一日	懇談會	同	三八	姉崎 純郷	同
同 十一日	同	同	三八	主催者 吉川吉次郎	事業促進其他の件に付

開催月日	會名	場 所	來會者數	講 師	摘 要
九月 四日	講習會	大正村小學校	二五〇	高田 實造	融和促進
同 七日	同	秋津村小學校	五八〇	中川 義雄	同
同 七日	同	初瀬町小學校	一八五	中川 義雄	同
同 二十六日	懇談會	初瀬町小學校	一八五	主催者 中川義雄	融和促進
同 二十六日	講習會	田原本小學校	八七	同	同
十月 十三日	同	大正村名願寺	五二〇	布施 公憲	同
同 十八日	同	同村小林光名寺	五八〇	山田 清井	同
昭和二年 一月 五日	懇談會	御 所 町	二八	岸本 小次郎	同
同 六月 六日	講習會	同町壽座	三二五	主催者代表 吉川吉次郎	同
同 六月 六日	同	上牧村小學校	四五〇	吉川吉次郎	哀悼の意を表する爲め融和促進
同 七月 七日	講習會	天満村出公會堂	五二〇	清水 精一	思想善導の爲め融和促進
同 七月 七日	懇談會	同	一〇〇	吉川吉次郎	同
同 七月 七日	講習會	秋津村西室	三八五	同	同
同 八月 八日	同	大正村西松本	六五〇	中川 義雄	同
同 八月 八日	同	葛村高等小學校	四二八	吉川吉次郎	同
同 八月 八日	懇談會	同	二五	清水 精一	同

第三章 融和團體の活動

講習生は奈良縣下町村吏員神職、僧侶、教員、警察官、憲兵、青年等五十二名、至極熱心に七名の講師より熱烈なる講義を聴講しながら全員餐食を共にした。







二十六日 山邊郡西部某地 講演中に差別言辭

其他目下調査中のもの四件

(ハ) 會報と宣傳物の發行

發行月日	數	部數
三月三十日	會報 八號	三千部
四月三十日	同 九號	同
六月三十日	同 十號	同
九月三十日	同 十一號	同
十一月三十日	同 十二號	同
一月三十一日	會報十三號	三千部
三月三十一日	同 十四號	同
十一月二十三日	宣傳ビラ	二万五千枚
十二月十二日	同	三万枚
	要覽	四千部

(ト) 各地方廳並に各種團體に對する交渉

- 一、五月二十一日奈良縣警察部と某件の交渉
- 二、同二十六日大阪府社會課と某件の交渉
- 三、六月十四日奈良縣内務警察兩部と某件の交渉
- 四、七月二日内務省社會局、北海道廳出張所、中央融和事業協會等へ會務に付交渉
- 五、八月七日京都府喜多博士及本願寺社會課等と講師の件に付交渉
- 六、八月十六日 縣警察部に某件に關する交渉
- 七、八月二十三日大阪府社會事業聯盟と講師の件に付交渉

八、十一月十一日兵庫縣小濱に講師の件交渉

九、同二十六日奈良縣知事と會務に付交渉

一〇、十一月二十八日同知事及三部長と會務に付交渉

一一、同二十二日社會局、司法省、中央融和事業協會に對し公務に付交渉

一二、二月四日社會局並に協會に對し會務の交渉

一三、同二十八日若槻首相以下六大臣並に各政黨總裁に對し部落問題解決に關する交渉

(チ) 基本基金に關する懇談並に交渉

一、四月十二日宇智郡役所に於て各町村長と懇談

二、同十四日添上郡役所に主事と交渉

三、同十九日磯城郡長以下係官と交渉

四、同二十八日南葛城郡各町村長と懇談

五、五月四日奈良市、生駒郡當局と交渉

六、六月七日高市郡役所に於て各町村長と懇談

七、同十八日北葛城郡當局と交渉

八、同二十八日宇陀郡山邊郡添上郡當局と交渉

九、七月二十一日より二十五日に涉り宇陀郡各町村役場に於て町村當局と交渉懇談

一〇、八月三日添上、磯城の有志と交渉

一一、同月十七、十九日の二度吉野郡町村長と交渉

一二、十二月二十六日 同 上

(リ) 管外 觀察

一、八月六日京都市外北野天龍寺に於て中央融和事業協會並に京

- 郡府親和會共同主催の下に開催せる融和事業講習會を吉川副會長廣澤社會係視察
- 一、九月二十八日より十月十一日迄吉川副會長北海道農耕地の視察
  - 二、十一月二十一日埼玉縣大里郡内を吉川副會長視察

### (七) 三重縣社會事業協會融和部

#### (1) 補助事業

開催月日	會名	開催地
二月四日	融和事業講演會	四日市
二月五日	同	津市
二月六日	同	宇治山田市
三月十九日	同	鈴鹿郡龜山町
三月二十日	同	阿山郡上野町

#### (4) 宣傳

機關雜誌三重新報に毎號該當記事と掲載し毎號約三千部を縣下一面に配布。

#### (5) 會議

融和委員會——大正十五年三月十六日津市に於て開催、委員全部出席左記事項に對し熱心に附議した。

- 一、融和運動の趣旨の普及徹底を圖るべき方法

#### 第三章 融和團體の活動

#### (3) 講演會

河藝郡一の宮村に於て開催された懇談會に對し、二五〇圓の事業費中、一七〇圓の補助を爲した。因に右懇談會は郡内双方の有力者各三十名、其他を加へて七十名参加し、各々意見を交換し、引續き晚餐會を催して盛會裡に散會した。

#### (2) 講習生脈遣

大正十五年五月二十六日より五日間開催の中央融和事業協會主催、融和事業従事員講習會に縣内より五名派遣して受講せしめた

東洋紡績工場に於て工男女七百名に付講演、盛會

官吏師範生及有力者二百名に對し講演、盛會

一般に對し講演、二百名参加、盛會

女子師範生に對し二百名講演、盛會

町村議員總代大會席に於て二百名に對し、講演、盛會

一、差別事件に對し本會融和部の採るべき態度

融和委員會——昭和二年一月二十五日津市に於て開催、左記事項に就いて附議した。

一、改元に際し融和の實を擧ぐるに最も適切なる精神運動と物的施設方案

一、委員を増加する必要なきや







(3) 其他の事業

事業の種類	名 稱	開設月日	場 所	事 業 概 況
隣保事業	津島共存園	大正十五年九月四日	海部郡津島町	教育部、社交部、児童部、婦人部、診療部、相談部、経済部を設けて托兒所其他の事業を行ふ。工事完成の上は津島共存園と同様七部を設け事業開始の豫定
同	平野町共存園	工 事 中	名古屋市西區平野町	

(九) 静岡縣社會事業協會融和部

(1) 講習會	開催月日	會 名	開催地	状 況
	大正十五年一月二十六日 より三十日迄 五日間	融和事業講習會	濱 松 市	中央融和事業協會及本會共同主催、青年會員七十餘人
	昭和二年一月二十七日より 三十一日迄 五日間	中堅青年融和事業講習會	榑原郡相良町	静岡縣及本會共同主催、志太郡外二郡青年正員五十六人
	昭和二年二月十六日	同	同郡 川崎町	川崎町中堅青年の一夜講習會、會員三十名
	同 三月五日	同	同郡 吉田村	吉田村中堅青年の一夜講習會、四十名

(2) 講演會

大正十五年十月十五日	融和講演會	志太郡岡部町	有馬親孝、今井兼寛、河上正雄、縣社會課長等出席、千餘人
昭和二年三月十二日より 四 日 間	同	縣下五ヶ所	下村春之助氏出席、各所共相當の集合があつた

(3) 宣 傳

雜誌、本會發行毎月一回「會報」配付

(4) 會 議

開 催	昭和二年十月二十一日より四日間(同會融和部主催)
會 名	實行委員協議會
開催地	濱松市外三ヶ町村
協議事項	知事諮問案、本會融和部提案協議、委員取扱事件報

出及研究

状 況 委員、關係市町村長、警察官、方面委員、社會事業家等、意見の交換をなし諮問に答申し有益なる協議をなした。

(5) 其他の事業

(イ) 表 彰

二月十一日、縣及中央融和事業協會より榑原郡吉田村、中村直次郎を表彰。中央融和事業協會より濱松市名残飯島了正、小笠野平田村中島伊三吉、濱名郡吉田村宮本均之を表彰。

(ロ) 青年觀衆

大正十五年二月二十二日より五日間縣下二方面觀衆。濱名郡可美村、小笠野南山村兩青年部落内外より各六名東京方面觀衆、相良町藤枝町青年各六村。

(ハ) 部落代表團外觀衆

大正十五年三月八日より十四日迄七日間(縣主催)。三重、奈良二縣觀衆、部落内外町村會議員代表者八人。

昭和二年三月一日より四日まで四日間。京都、奈良、二府縣觀衆。部落代表三人。

(ニ) 融和懇談會

開 催 大正十五年六月十九日、同八月十五日、同十月十七日

會 名 志太郡融和關係有志會

開催地 志太郡藤枝町(二回)小川村

(ホ) 其 他

(一〇) 滋賀縣自治協會

開 催	昭和二年二月十七日
會 名	千濱村北部改進黨
開催地	小笠郡千濱村
目的	部落問題解決の第一策として生活改善を爲すことを議決し區内四十九戸全部を以て組織した。

(1) 懇 談 會

昭和二年一月十七日から廿二日迄縣下五ヶ所に於て、融和懇談會を開催した。來會者關係町村長、保導委員、社會事業家、小數個代表者にして、懇談事項は縣の取扱方針、政治方針、町村の希望、小數個の希望。

(2) 宣 傳

毎月一回雜誌「共濟」約一千を發行し、宣傳に用ひた。

(3) 獎 勵 金 交 付

大津市東浦青年會	一五〇圓
滋賀縣坂本村自治協會	三五圓
犬上郡東甲良村矯風會	一七〇圓
大津市東浦主婦會、處女會	七五圓
野洲郡野洲町明治會	七〇圓
合 計	五〇〇圓



(二) 信濃同仁會

(1) 補助事業

(イ) 同會獎勵規程に基き、左記二十名に對し奨學贈與金を交付した。

小學校高等科十一名、徒弟學校六名、補習學校三名

(ロ) 郡又は町村單位の融和委員會、方面委員の融和事業、其他融和促進上に裨益する各種教化團體に總計百圓の補助をなした。

(2) 講習會

月日	會名	開催地	科	講	師	受講人員
二月二十一日	融和	田市柳原區公會堂	滯米雜觀	最近	提章	八五
二月二十二日	融和	同上	融和運動の基礎問題	常任理事	小根澤義山	内女 八五
二月二十三日	融和	同上	自治精神に就て	理事	成澤伍一郎	内女 八七
二月二十四日	融和	同上	融和運動と信念	融和主任	東山 純明	内女 八七
			公民としての心得	融和運動の基礎問題	白石喜太郎	内女 八七
			最近の社會運動	常任理事	小根澤義山	内女 八七
			藝術と人生、市民と市政	新聞記者	古田 靜衛	内女 八七
				上田市長	勝俣英吉郎	内女 八七

尙科外として西澤主事全國融和運動の現状を説明し、講師講習生共異常なる緊張を以て終始した。

(3) 講演會

開催月日	會名	開催地	狀	況
大正十五年一月十三日	社會問題講演會	埴科郡西條村公會堂		講演終了後村有力者と約二時間に亘り懇談す
十七日	融和講演會	小縣郡豊里村犬日ノ木		

同	十八日	社會問題講演會	更級郡川柳村、上石川公會堂	成澤理事長成澤(勇)、小根澤理事等講演す、來聴者二百名
同	二十四日	東北融和問題講演會	小縣郡本原村東北劇場	成澤理事長、成澤勇理事、東山融和主任其他幹事三名講演、來聴者二百名、活動寫眞の映寫をなす
同	二十七日	融和問題大講演會	松本市公會堂	本田日生氏、成澤勇、小根澤理事講演す、來聴者約五百名、内婦人百名位、午後五時閉會
同	同	同	南安曇郡豊科町公會堂	講師は右に同じ、來聴者二百名、場内嚴肅の氣満たり、午後六時閉會、午後十一時閉會
同	二十八日	同	北安曇郡大町郡役所	講師は本田日生、成澤理事長、小根澤理事、丸山融和主任、來聴者二百名、大町高女生徒其他婦人多數來聴
同	二月七日	同	更級郡中津村小學校	講師は成澤理事長、小根澤理事、東山融和主任、來聴者二百五十名
同	二十一日	同	小縣郡彌津東村町公會堂	講師は秦少將、宮地中佐、島本少佐成澤理事長等、最初來會者少く、秦少將、宮地、島本兩氏等在郷軍人の家を戸毎に訪問され來聴を促さる結果三百名來會せり
同	二十一日	融和問題大講演會	上田市公會堂	講師は右に同じ、來聴者六百名、村内各婦人會員、暨業講習所女生徒等、婦人二百名
同	二十二日	同	小縣郡依田村小學校	講師は右の外成澤勇理事講演す、來會者六百名、内婦人二百名
同	二十二日	同	小縣郡浦里村小學校	講師は右に同じ、來會者約四百名、内婦人百五十名餘
同	三月十四日	融和促進講演會	上水内郡三水村役場	講師成澤理事長、小林仙南、小根澤兩理事、倉石要人氏等、來會者あり戸別訪問をして來聴を勧誘し漸く百餘名來る
同	二十六日	同	上水内郡長小沼役場	成澤理事長、小根澤、平坂、池田三理事講演す、來聴者百五十名
同	四月三日	融和問題講演會	小縣郡傍陽村、曲尾區公會堂	小根澤理事、同仁會の運動と題し三時間に亘り長廣舌を振ふ、來聴者二百五十名
同	同日	同	上水内郡古里村役場	池田、平坂、兩理事、湯田幹事、倉石要人氏等講演す、來聴者約百五十名
同	四日	融和問題講演會	上水内郡朝陽村小學校	成澤理事長、小根澤、池田、平坂、三理事講演す、來聴者百名

第三章 融和團體の活動







二月十日 同

小縣郡傍陽村

傍陽村長有力者八十名、本會幹事等出席、融和促進に就て懇談

同 二十日 同

東筑摩郡島田村

島田村有力者、同仁會役職員等三十五名出席、種々懇談した

(5) 宣傳

(イ) 活動寫眞映寫

施行月日

施行地

施行方法

状況

大正十五年一月二十四日

小縣郡東原村東北劇場

講演の中頃講師交替の節五巻最後に五巻映寫す

來會者多數

(ロ) 文書宣傳

施行月日

施行地

施行方法

状況

大正十五年一月十八日

下高井郡瑞穂村、佛教講演會來會者

本會趣意書及「國民的反省」、雜誌「同仁」殘部等を配付した

二月二十一日

北信一市五郡在郷軍人分會長懇談會

各來會者全部に本會趣意書及「國民的反省」を配付し且歸宅後各會員全部に配付方妥賜した

十二月十八日

縣下各官公衛學校、及各地有力者

本會趣意、綱領事業要綱等を記載せる要覽を頒布す

昭和二年 一月十二日

東筑摩郡錦部村有力者

理事長名義を以て同村有力者に融和促進に關しての盡力を依頼し且趣意書、國民的反省等を送つた

二月 二日

下高井郡各町村有力者

理事長及下高井支會選出理事酒井信治氏名義を以て同郡有力者二百名へ融和の急務を力説せる依頼狀を發した

(六) 其他

△毎月一回雜誌同仁を三千部宛刊行した。

△隨時小學校生徒に融和促進歌を印刷配付した。

△各地講演會の際街頭宣傳の際等は聴衆に本會趣意書「國民的反省」等を配付した。

△喜田博士述「歴史的考察」融和促進」等を各地青年會、婦人會員へ頒布した。

△八月二十五日上田市に開催の全國産業組合婦人講習會に出張講習生に聯盟發行「婦人覺醒號」を贈つた。

(6) 會議

開催月日

會議名

開催地

協議事項

狀況

大正十五年 一月九日

長水支會幹事會

長野市上水内郡役所

一、講演會懇談會の件  
二、會員増進運動の件  
三、教育振興獎勵策の件  
四、生産販賣組合の件  
五、改善事業助成の件

大正にて出席幹事は小數の爲熱心に協議した

同 十日

上縣支會幹事會

上田市本部署所

一、東北大講演會の件

出席幹事二十四名、副業轉換に就ては木工學校の視察をなす事に決し、大講演會を二ヶ所開催に決す

同 十五日

東北幹事會

小縣郡傍陽村、石巻筆次氏宅

一、講演會懇談會の件

講演會五ヶ所開催に決定、理事後任に後藤喜作氏當選

同 十八日

更級支會幹事會

更級郡中津村

一、中信支會創立の件

小根澤、成澤勇理事中支會設立準備の爲二十六日出張に決定

同 十九日

常任理事會

本部事務所

一、今後の活動方策の件

本運動をして全部に及す様大活動をなす可く決定した

同 二十日

下高井支會

下高井郡役所

一、役員選舉

出席幹事十二名

同 二十七日

中支會

松本市公會堂

一、大講演會開催の打合

會場を小縣郡依田村に變更決定

二月三日

上縣支會

上田市本部

一、大講演會の件

同

同 五日

依田地方

小縣郡丸子町

一、大講演會講師の件

成澤理事長、小根澤、成澤(安)常任理事、西澤主事出席

同 十五日

稱津幹事會

小縣郡稱津村

同

同

同 十八日

常任理事會

上田市本陽寺

一、大講演會講師の件

同







同 二十七日 長水支會幹事會 愛國婦人會長野支部

(7) 融和主任の巡回

融和主任東山範明、丸山岩雄兩氏は、縣下約百ヶ町村に涉り、各町村を巡回して、役場學校、駐在所、青年會長、婦人會長、其他公共團體長、區長、村長等有力者、及び部落を訪問して懇談を遂げ、融和促進、差別撤廢のため努力した。

(8) 講師派遣

派遣月日	派遣先	派遣講師	状況
大正十五年 一月三十日	上田市愛國婦人會	小根澤義山	「婦人と融和」と題し三時間に亘り講演。
同 八月二十一日	滿蒙協會	成澤五一郎 小根澤義山	
同 十月二十日	南佐久郡岸野村青年會	小根澤義山	
昭和二年 一月十六日	小縣郡依田村婦人會	同	「婦人と融和」に就て講演

上田市柳原豊原部會員約十五名餘參加し「貴く生きむ」融和促進歌」等を高唱し通行人には會趣意書、國民的反省、雜誌の殘部等を配付した。

(10) 基本調査

運動方策確立の爲縣下各部落の基本調査をした。調査項目、左の通りである。  
イ、戸數、ロ人口(男何人、女何人)。ハ、生業別順位、ニ、中心人物の有無(有りし場合は、氏名略歴年齢等)ホ、融和團體並に部落を基本とせる各種團體の有無及其状況、ヘ、一般共通神社の氏子なるか否かト氏子神社の有無、チ、部落専立神社の有無、リ、共通氏子祭典の和、ヌ、檀那寺の有無、ル、寺檀及一般檀家と法要其他の和、ヲ、他に於ける和の状況、ワ、學校の關係、カ、消防の關係、コ、其他公私團體加入の有無及其關係、ク、經濟生活の現況(生活の難易、生活上資源の有無、レ、職業別百分比、ソ、轉業の要否(如何に轉業すべきか)ツ、至急解決すべき差別事象、ネ、備考、差別事象の有無

基本調査概括表

郡市名	消防差別有	公私團體の差別有無(青年會姉妹會其他)	神社差別有	寺院差別有
更級郡	無	有	一八	有
同	無	有	一八	有
埴科郡	同	同	一三	同
同	同	同	一三	同
同	同	同	一三	同
同	同	同	一三	同
同	同	同	一三	同

第三章 融和團體の活動

- 融和促進に關する件
- 講習會の件
- 街頭宣傳の件
- 支會常任幹事改選
- 支會常任幹事選出
- 支會常任幹事會選出(常任幹事互選)

常任幹事は全部再選  
支會常任幹事會選出等は一時保留  
近々開催に決定  
街頭宣傳は長野に於て

(9) 街頭宣傳

開催月日	場所	講師	状況
昭和二年 二月十一日	上田郵便局前	成澤理事長	聴衆約九十三名、内女二十三名何れも熱心に傾聴し最も學生が多かつた。
同 二月十一日	上田市松尾町	成澤理事長	聴衆三十數名内女十名餘
同 二月十一日	上田市上野町	同	聴衆四十二名、内女十四名
同 二月十一日	上田市土橋角	同	聴衆七十三名内女二十名餘

郡市名	戸數	人口	生業別順位	中心人物	融和團體	部落	神社	寺院
上水内郡	同	同	同	同	同	同	同	同
下高井郡	同	同	同	同	同	同	同	同
上高井郡	同	同	同	同	同	同	同	同
小縣郡	同	同	同	同	同	同	同	同
東筑摩郡	同	同	同	同	同	同	同	同
北佐久郡	同	同	同	同	同	同	同	同
南佐久郡	同	同	同	同	同	同	同	同
南安曇郡	同	同	同	同	同	同	同	同
北安曇郡	同	同	同	同	同	同	同	同
松本市	同	同	同	同	同	同	同	同
上田市	同	同	同	同	同	同	同	同

(11) 地方改善事業輪旋

- 育英の部
- 中學校一人、農學校一人、高等女學校二人
- 改善事業の部



公會堂建設一、住宅改善五、道路改修三、

(12) 融和事業視察

視察月日	視察地及團體名	視察者
大正十五年六月十五日	愛知縣融和事業名古屋市同明會 事案 同市平野町融和事業等	東山 範明
六月十六日	滋賀縣犬上郡豊郷村、日枝村、津市等の融和事業、同縣社會課	同 人
六月廿五日	兵庫縣清和會、神戸市中山手通青風會の事業大阪府社會課	同 人
六月二十六日	三重縣津市、水本社本部	同 人
六月二十七日	福井縣敦賀町良覺寺住持、徳本達雄師個人經營の融和事業	同 人
六月廿八日	金澤市高山虎正氏を問ひ懇談す	同 人
六月廿九日	高山縣融和會	同 人

(13) 入部給旋

求職者三名、内二名を縣内へ看護婦に就職せしむ  
結婚に關し斡旋せし者一名

(14) 差別事件の解決及調査出張等

イ、南佐久郡三反田受持巡査の失言問題の真相調査の爲小根澤、成澤(男)成澤(安)三常任理事四月七日出張、事件の中心人物及水本社代表數十名に面會

ロ、小縣郡某村小學校生徒が部落の優秀生に對し退學を強要したかの如き書面を出したる事件あり真相調査の爲小根澤、成澤

(男)兩常任理事西澤主事四月九日 午五時出張、

ハ、東筑摩郡島内村にては從來氏神祭典に關して一般との間に融和せざるものあり多年折衝を重ねてた處、中信支會常任幹事三澤啓一郎氏の交渉斡旋により四月の祭典より總てを平等にすることに成り圓滿解決した。

ニ、小縣郡某小學校に於て一生徒が部落生徒に向つて侮辱言辭を使用し、同生徒が受持教師に訴へた處同教師は侮辱せる者に罪を命じたところが級の大半は舉手をした。然るに同教師は之に對し何等の調戒もなさなかつた事件が、關係部落の耳に入り大事件起らうとしたので、同會幹事、同校に赴き其不心得を嚴詰したので同教師は衷心より陳謝し且、校長の責任ある回答により解決した。

ホ、八月中旬に惹起した失言問題に關し上縣支會幹事東山市太郎瀧原善太郎及會員石巻忠勝三氏九月十三日失言者と會 反省を促したところ、同人は只管陳謝し衷心反省したかの如く見受たので今後の注意をなして解決した。

ヘ、八月下旬上田市新地に起りたる娼妓の失言事件は上縣支會幹事成澤澤若同伊吉、會員砥石彌次三氏が失言者及取締若井嘉子太郎氏と折衝の結果、同氏の誠意ある回答は失言者の懺悔に依り圓滿解決。

ト、小縣郡某村小學校教員の辱侮行爲事件は上縣支會幹事一月初旬校長及該教員と會見、校長の誠意ある回答と該教員の反省により圓滿解決。

チ、小縣郡長村真田區では從來青年會に加入して居なかつたが昭

和二年一月より加入して、圓滿解決した。

リ、更級郡眞島村にては祭典青年會、消防組等に加入せしめなかつたが一月十五日加入し、其後精神的にも融和進歩してゐる。

ヌ、北安曇郡常盤村にては從來或一部のものを祭典年番に加へなかつたが二月一日より全部家順に行ふ事になつた。

ル、小縣郡某村某氏妻女の失言問題について西澤主事二月十一日出張、詳々とその非を説き真に衷心より失言者を懺悔せしめた。

ヲ、小縣郡某村補習科生徒中差別言辭を使用した者あり二月二十五日成澤囑託、出張衷心より反省せしめ保護者及、校長職員に今後の注意を求めた。

ワ、小縣郡某村農會總代選舉の際或一部の有選舉資格者を除外した件あり大紛起らんとしたが同村長其他關係、責任者の謝陳によつて圓滿解決した。

六、東筑摩郡部村は神社氏子青年會等に加入せしめず兵士の送迎等に於ても差別があつたが、四月五日より總てを同一になすことになつた。

(15) 文書による陳情

ヨ、上田市某製鐵造入方の同居婦人の水本社同人に對する失言問題あり關係水本社執行委員某氏外二名來り大紛起らんとしたが結局本會事務所に於て關係者立會の上成澤澤若理事失言者に詳々とその非なるを説き同婦人の衷心よりの懺悔に依り三月十八日圓滿解決した。

イ、大正十五年十二月二十四日長野縣學務部長宛、必親展を以て教育者が融和問題に對し徹底的に理解し善處する様訓令示達方に關し陳情した。

ロ、昭和二年六月十七日長野縣警察部長及社會課宛消防木加入差別待遇解決方に關し陳情した。

ハ、縣社會課長宛小學校教員の自覺を求むる件に就て陳情した。

ニ、三月十日に縣社會課長宛三月十四、五兩日に亘つて縣會事堂に於て開催される神社協會總會に於て神社關係の差別事象概廢に就て懇談訓旨せられたる旨陳情した。

(1) 講演會

四月十日縣會議事堂に於て融和問題講演會を開催した。同趣相愛の體験と題し中央融和事業協會石清水講師の講演聴衆五百餘名。

(2) 會議

開催月日 會議名 開催地 協議事項 狀況

四月十日 創立總會 縣會議事堂

イ會則の制定  
ロ會長及役員選舉

安藝社會主事の開會の辭に次ぎ同氏より創立經過報告あり後會長津名義房氏を推薦す續いて會則を議決し、宣言決議あり會事は地方有志及市町村長の會員等約五百名



十一月二十二日 役員會 富山市 市役所

二月十八日 役員會 縣會議事堂

(3) 其他の事業

(イ) 融和事業従事員講習會

中央融和事業協會主催の第一回融和事業従事員講習會に左記五名派遣した。

高松直治、山本源次、高橋豊二、海老坂精安中村菊次郎

(ロ) 融和事業視察

左の要項に依り融和事業視察員を囑託派遣した。

組織

第一班、縣 屬 龜津 朋義 富山市 中田 常藏

第二班、縣 屬 中野川郡 有澤與左衛門 同 中川松次郎

婦負郡 中森 甚才 高岡市 高島豊太郎

○視察個所及期間

イ 大正十五昭和元  
年度豫算案  
事業計畫

昭和二年年度豫算案  
部内問題國策確立  
協同會代表者派  
遣の件

安藤常務理事内務省より金壹千圓獎勵とし  
て御下附になりし旨傳達し、別紙の通り豫  
算案を議決した。同日津名會長辭任の申出  
あり、白上本縣知事を推戴すべく協議した  
總會に提出すべき豫算案を議決したる後、  
上記協同會へ代表者派遣の議決定、同時に  
代表者選定した。

第一班 二月十九日より二十六日迄

愛知縣寶飯郡小坂井村伊奈

静岡縣濱名郡吉野村

第二班 二月二十六日より三月五日迄

岡山縣邑久郡福田村福中

鳥取縣松江市松尾町

(ハ) 第二回國策問題國策確立協議會

全國融和聯盟主催の前記協議會に代表として左の二名派遣した

下新川郡 早崎理三郎

西佐波郡 中島茂太郎

(ニ) 會報發行

大正十五昭和元年度に於ける事業状況を會報に記載し、會員及  
各市町村長に配布した。

(二三) 鳥取縣一心會

(一) 講習會

開催月日 開催地

状況

白大正一五、七、二〇  
至大正一五、七、二〇

融和事業講習會

西伯郡大山村大山寺洞明院

講師、三好伊平次、石清水一雄の兩氏、受講者七〇名

(2) 講演會

開催月日 開催地

状況

大正一五、三、二二

婦人講演會並講習會

岩美郡宇部野村、鳥取市鼓  
片原町、氣高郡美穂村東伯  
郡小鴨村、西伯郡所子村

講師西本願寺女教士太田醜子氏、講演要旨、婦人の修  
養融和親善講習課日家事作法、修養及信仰

大正一五、七、二五

融和問題講演

會西伯郡米子町東伯郡倉吉町

講師 谷 龍之助氏  
同 三好伊平次氏

(3) 助成事業

施行市町村 融和問題講習會

補助費

備考

西伯郡 米子町

副業獎勵講習會

二五七圓二四

一五〇、〇〇

昭和二年一月廿八日より同年二月十四日  
迄米子町公會堂に於て職事草履製作講習  
會を開催、受講者六九名中五三名に對し  
修了證書を交付

(4) 宣傳

施行月日 施行地

方法

状況

大正一五、六、

縣内一般會員

印刷物配布

一心會 要 錄

同

同

同

縣外視察報告書五〇〇部

(5) 會議

開催月日 會議名 開催地

協議事項

状況

大正十五、六、一二

總 會

鳥取縣會議事堂

一、縣下の情勢に鑑み融和促進上最も緊要と認む  
る事項如何

石清水一雄氏講演

昭和二、三、一五

評議員會

鳥取商業會議所

一、大正十四年度經費出入決算認定の件一、昭和  
二年度事業經費出入豫算の件一、會則修正の件

出席者三十一名

第三章 融和團體の活動



(6) 其他の事業

(イ) 海外視察

施行月日

名 稱

人 數

施行地

備 考

大正一五自四、二六

一心會縣外視察團

一 二 滋賀、奈良、三重

各縣各縣内社會事業視察歸縣後報告書提出

(ロ) 融和事業講演會後援

施行月日

名 稱

施行地

大正一五自一〇〇、二六

融和事業講演會

鳥取市二ヶ所、氣高郡美穂村八頭郡若所、東伯郡長瀬村、同郡淺津村、同郡倉吉町二ヶ所、米子町

櫻町二西本願寺一如會、理事遠山正尋氏本願に出張講演會の開催方に付後援した

(ハ) 融和談會

施行月日

名 稱

施行地

備 考

昭和二、自三、二五

一心會懇談會

岩美郡面影村、入頭郡八束村、氣高郡大和村、東伯郡柴村、西伯郡手間村、日野郡日野村

二ヶ所同日に開催  
一ヶ所に付三十四補助

(ニ) 融和名 稱

施行地

方 法

備 考

社 會 時 報

縣 内 一 般

毎月十五日小雑誌を發行して  
會員其他に配布

融和問題其他社會問題同會に關係ある  
記事を記載

(一四) 島根縣和教會

(一) 講習會

開催月日

會 名

開催地

状 況

白大正十五年六月三日  
至同年十一月三十日

婦女講習會

飯川郡豊治村玉津

自昭和二年一月十八日  
至同年三月三十一日

婦女講習會

安濃郡大田町山崎

(2) 講習會

開催月日

會 名

開催地

状 況

女子の智徳練磨、人格向上、家庭改善の目的を以て、開會、毎夜開會日曜日大祭祝日を除く、學科は修身、算術、家庭科、生花に於て講師は小學校教員及有志者に委嘱、向來外講師に宗教師等を採用し、慰安の爲に香動、眞試食等を催した、講習生二十名の外に聴講者多数ありて非常に良好なる成績を挙げた。  
状況は前項と同様に講習生十六名、外に多数同郷方面より参加せる聴講者十二名あり何れも熱心に學習し多大の効果を収めた。

大正十五年一月十九日

融和促進講演會  
(活動寫眞會)

八束郡 川津村  
(小學校)

同 二月一日

同

安濃郡温果津町  
(劇場)

同 二月二日

同

通摩郡仁万村  
(劇場)

同 二月三日

同

安濃郡波根東村  
(寺院)

同 三月二十九日

同

八束郡 尖道村

同 三月三十一日

同

大原郡 加茂村  
(劇場)

同 三月三十一日

同

大原郡 大東町  
(劇場)

同 五月二十六日

同

安濃郡 大出町  
(小學校)

同 五月二十七日

同

飯川郡 今市町  
(小學校)

風雪を同じして來集せし者約四百名にして盛況を呈し部長本會長本會幹事等熱烈に講演した、來會者約七百名、花吉龍雲寺住職及本會幹事等講演した。來會者約六百名、花吉住職、本會長、本會幹事等講演せり。暴風雨にも拘らず約八百名の來會者あり本會長本會幹事講演した、大阪毎日新聞記者、本會幹事の講演來會者約四百名、大阪朝日新聞記者、本會長、本會幹事講演した。來會者約六百名、錦織光福寺住職本會長本會幹事講演した。來會者約八百名、其他同上。來會者約三百名其他同上。



融和事業年鑑

同	五月八日	同	八東郡美保町 (小學校)	來會者約四百名、錦織住職本會幹事講演した
同	七月十五日	同	安濃郡 島井村 (小學校)	來會者約七百名、曾田大念寺住職本會幹事講演した
同	九月二十八日	同	四智郡 瀬原村 (公會堂)	來會者約五百名、本會長、本會幹事講演した
同	十月五日	同	蕨川郡 聖治村 (小學校)	來會者約六百名、本會幹事小學校長講演した。
同	十月二十三日	同	蕨川郡 布智村 (小學校)	來會者約二百名、本會長本會幹事講演した。

(3) 宣傳

大正十五年一月二十日	縣下一般	融和促進に關する標語を購買を以て募集し一千八百二十六句の應募中より一等一句、二等二句、三等五句を選抜し大々賞金を贈與した	本會機關「和敬」第二號二千五百部を發行した。	當選標語は印刷に附して各方面に配布しスタンプを作りて文書等に押捺する等効果多大なものがあった。
昭和二年一月二日	縣下一般	融和促進に關する標語を購買を以て募集し一千八百二十六句の應募中より一等一句、二等二句、三等五句を選抜し大々賞金を贈與した	本會機關「和敬」第二號二千五百部を發行した。	内容は名士の講演、本會の施設状況等を網羅したものであつて、本會員及各學校各種團體等に無償頒布した。

(4) 會議

大正十五年一月二十三日	評議員會	島根縣廳	大正十三年度經費決算承認の件 大正十四年度經費決算決定の件 大正十五年度經費決算決定の件 幹事増員の件 國策樹立建議に關する件 中國各縣に於て部落出身人物交換の件	出席者は本會役員及評議員にして午前十一時開會、午後三時閉會、内務部長の訓示があつた。
四月六日	役員會	島根縣廳	融和問題に關し國策樹立促進の件 融和團體に於て地區基本調査の件 市町村單位の融和團體設置の件 中國各縣融和事業連携の件	本會は和敬會の主催を以て開會し三好中央融和事業會理事、兵取廣島取岡山島根各縣代表者二十名出席、島根縣知事の告辭ありて各員熱心に意見を披瀝し最有意義に終始した

同	三月十七日	第一回中國各縣融和事業協議會	島根縣廳	(一) 融和問題に關し國策樹立促進の件 (二) 融和團體に於て地區基本調査の件 (三) 市町村單位の融和團體設置の件 (四) 中國各縣融和事業連携の件	本會は和敬會の主催を以て開會し三好中央融和事業會理事、兵取廣島取岡山島根各縣代表者二十名出席、島根縣知事の告辭ありて各員熱心に意見を披瀝し最有意義に終始した
同	四月二十七日	島根縣和敬會第二回總會	大原郡大東町小學校	(一) 融和促進に關する宣言決議 (二) 人材登用に關する建議の件 (三) 本會則更正の件	出席者五十餘名、和敬會總會に列席の來賓を加へ食卓を圍みて各員の所懐を披瀝し有意義に閉會を告げた。
同	四月二十七日	融和懇談會	大原郡大東町小學校	融和促進に關する意見交換	顧問及役員出席協議を遂げた。
同	九月十八日	役員會	島根縣廳	(一) 大正十六年度決算の件 (二) 幹事増員の件 (三) 融和實情調査の件 (四) 部落副業獎勵の件 (五) 婦女講習會の件 (六) 聯隊に於て講演の件	顧問及役員出席協議を遂げた。
同	十二月八日	役員會	島根縣廳	(一) 大正十五年度追加更正決算の件 (二) 融和事業事務員設置の件 (三) 婦人幹事設置の件	役員顧問等出席し協議を遂げた。
昭和二年三月二十三日	役員會	島根縣廳	(一) 昭和二年年度決算の件 (二) 大正十四年度決算の件 (三) 地方部會又は地方委員設置の件	役員顧問等出席し協議を遂げた。	

(5) 其他の事業

(4) 圖書出版

第三章 融和團體の活動







計 三、四〇〇〇

昭和二年 二月

(三)訪問宣傳 出張地名 訪問先

大正十五年	阿哲郡 豊永村	町村役場、巡查駐在所、寺院
同 一八	丹治郡村	同
同 一九	刑部村	同
同 二〇	上刑部村	同
同 二一	苦生村	同
同 二二	新見町	同
同 二三	上市村	同
同 二四	上市村	同
同 二五	干屋村	同
同 二六	干屋村	同
同 二七	新野村	町村役場、巡查駐在所、寺院
同 二八	神代村	同
同 二九	矢神村	同
同 三〇	野馳村	同
同 三〇	新砥村	同

(4)會議

同 三一	萬歲村	同
同 三二	本郷村	同
同 三三	新見町	同
同 三四	熊谷村	同
同 三五	新見町	同
同 三六	美郷村	同
同 三七	石蟹郷村	同
同 三八	石蟹郷村	同
同 三九	草間村	同
同 四〇	川上郡 高倉村	同
同 四一	小田郡内	同
同 四二	後月郡内	同
同 四三	赤野郡内	同
同 四四	和氣郡内	同
同 四五	苦田郡内	同
同 四六	邑久郡内	同
同 四七	上道郡内	同
同 四八	岡山市御津村内	同
同 四九	上房郡川上村内	同
同 五〇	吉備郡都窪村内	同
同 五一	眞庭郡内	同
同 五二	勝田郡内	同
同 五三	同	同

月日 會議名 開催地

一、三〇	懇談會	本部別室
二、一五	研究會	同
三、一五	常任幹事會	同
同、二四	幹事會	同
同、二八	代議員會	岡山市禁酒會館
同、一一	地方職員會	皆田郡津山町
同、一二	同上	勝田郡役所
同、一八	第七回總會	皆田郡 津山町
五、三一	幹事會	本部別室
八、一二	幹事會	本部別室

協議事項 摘要

一、在岡各新聞社と聯絡の件	各社代表記者參集協議可決
二、如何なる言語行動を以て差別行動と認むべきか	差別表示方法の種類列舉の上大體の方針決定
三、大正十五年度執行事業計畫	原案可決
四、大正十五年度豫算計上	原案可決
五、大正十五年度豫算計上	原案可決
六、本會事業促進に關する件	出席有志十名
七、同上	十二名
八、地方行政に付建議	可決
九、差別行動取締に付建議	可決
十、被差別者の行動に付建議	可決
十一、育英補助に關する件	出席者十五名
十二、會報發行日變更に關する件	
十三、活動寫眞宣傳に關する件	
十四、法律制定運動に關する件	
十五、法制に關し各府縣友宜團	
十六、宗敎團體との聯絡に關する件	
十七、基全募集に關する件	
十八、官公吏採用に關する件	
十九、女學校生徒及小學校兒童	
二十、岡哲郡支部廢止の件	
二十一、功勞者表彰者に物品贈與	



九、二〇 幹事會 本部別室

出席者十六名

一〇、一一 地方有志懇談會 菅田郡津山支所

出席者十四名

一一、一〇 佛教團との懇談會 本部別室

出席者十四名  
可決

一二、一三 有志會 本部別室

出席者十七名

一三、一三 有志會 本部別室

出席者二十四名

婦人文化講習會の件  
「パンフレット」發行の件  
基金附集に關する件  
氏子問題は本年度内に可  
成一期に解決して明年に  
内部の宣傳に努め其統一  
を期すること  
報は希望者にのみ實費に  
て配つことを本部へ建議  
する  
一、佛教團體に融和部を附設  
せらるゝか然らざれば融  
和事業を加へられれば融  
和より常業の印刷物其他  
を以て本事業の支障を起  
りも地方の状況を通報せ  
られたいこと  
御話の際併せて融和に言  
及せられたること  
一、信者集合の際本部より出  
張宣傳の得らるれば豫報  
せられたること  
一、地方に於て宗教家會合の  
場合豫報を得て本部より  
も歩列懇談致し度きこと  
一、會費募集に關する件  
一、組織に關する件  
一、本部組織變更に關する件  
一、會費徵集に關する件

昭和二年  
一、一〇 幹事會 本部別室  
二、一〇 幹事會 本部別室

一、法律制定運動に關する件  
一、基金募集に關する件  
一、「パンフレット」に關する件  
一、婦人文化講習會の件  
一、會則改正に關する件

出席者十三名  
未決定

(5)其他の事業

(イ)實狀調査

月日	調査地名	調査事項
大正十五年 七、一六	和氣郡 麻野村	イ、戸口 ロ、職業と資産
同、一八	都窪郡 菅生村	ハ、轉住及出稼 ニ、衛生と生活狀態
自七、一七 至八、一六	阿哲郡 全町村	ホ、教育 ヘ、思想
昭和二年 一、一四	邑久郡 美和村	ト、風俗 勸怠
一、二六	淺口郡六條院村	チ、敬神と宗教
一、二八	久米郡 福岡村	リ、融和狀況 ミ、將來の感想
同	久米郡 福岡村	
二、自二一 至二三	赤野郡 周原村	
同	上房郡 松山村	
二、自二一 至二三	眞庭郡 久世町	
同	落合町 湯原町	

既往の増減、現在數等  
職業の變遷、現職業の適否、富の程度  
海外及國內地へ轉住及出稼の狀況、豐饒成績等  
上下水、浴場、便所、塵埃捨場等の設備、傳染病狀況  
義務就學及高等小學以上の就學狀況等  
政治、社會、經濟等に對する思想  
家庭、服裝、食事、言語、禮儀の狀況、結婚、離婚の狀況、男女間  
の風儀、犯罪狀況、遊民の有無等  
敬神崇祖觀念、宗教狀況、信仰の狀況等  
賤視差別の狀況、融和進歩の狀況等  
將來の豫想施設改良を要する事項等

第三章 融和團體の活動







二、一、二八

同、二一

三、一

同、三〇

熊毛郡田布施町

天津郡三隅村

(4) 會 議

開催月日

會議名

開催地

協議事項

状況

同 (「心光」第二號) 三千部發行

印刷物配付(本會一覽)

同(融和問題解決の鍵)

活動 寫 眞

見真教社主催盛會

一五、三、九

支部委員會

天津郡深川村

差別撤廃、融和促進に關すること

出席者 三〇別

同、一〇

同

厚狹郡船木町

同

同 二五名

同、一五

同

玖珂郡岩國町

同

同 七〇名

同、一七

同

豊浦郡長府町

同

同 三五名

五、一〇

本部委員會

縣 廳

豫算及事業

(5) 其他の施設

事項

場所又は宛先

備考

一五年二月五日

講師 囑託

吉敷郡山口町

第三期講師五五名

三、一

第一期融和事業大會

關係郡支部村

會衆 三〇〇名

四、一

差別撤廃依頼

寺 院

三十九ヶ町村に對するもの

五、一二

囑託講師(依頼狀)

厚狹郡小野村

五百通

同、一九

機會利用宣傳依頼

阿武郡紫福村

聽衆 三〇〇名

同、一

講師 派遣

天津郡三隅村

聽衆 一〇〇名

同、七

同

天津郡三隅村

天津郡佛教團主催聽衆 一五〇名

同 九

同 囑託

同郡日置村(吉祥寺)

同 聽衆 一〇〇名

同 〇

同 囑託

同郡同村(光安寺)

同 聽衆 一八〇名

同 九

同 囑託

同郡菱海村

同 聽衆 一二〇名

同 一六

同 會則變更

本派本願寺山口教區管事

第三期囑託講師講話報告二八一回

同 二二

同 機會利用宣傳依頼

佐波郡防府町

同市支部廢止に關するもの

一〇、三

同 講師 派遣

熊毛郡八代村

金光教會主催聽衆一五〇名

二〇、二九

同 事業促進依頼

各市町村分區長

八代村慈惠會主催聽衆六〇名

一、二四

同 同

一ヶ所

出席者 六五名

同 二五

同 同

一ヶ所

出席者 三五名

二、二六

同 同

一ヶ所

出席者 三五名

一、二二

同 同

豊浦郡豊田中村

第五期講師 五九名

同 一三

同 同

一ヶ所

第四期囑託講師講話報告一九三回

同 二三

同 同

各市町村分區長

聽衆 一五〇名

二年一月二九日

同 同

一ヶ所

聽衆 一五〇名

同 二〇

同 同

玖珂郡高森町

聽衆 一五〇名

同 二四

同 同

一ヶ所

聽衆 一五〇名

同 二八

同 同

分區委員二〇五三名宛

同 二六

同 同

玖珂郡米川村

第三章 融和團體の活動







融和事業年鑑

し、左の順序により盛會裡に散會した。

- 一、午前十時 開會
- 國民精神作興大詔奉讀
- 會長告辭
- 會務報告
- 來賓式辭
- 總會決議案附議
- 會員意見發表
- 一、午後一時より午後二時迄懇談會開催
- 一、講演
- 午後二時より京都龍谷大學教授梅原眞隆師の講演あり、午後五時閉會。

(4) 宣傳

(イ) 會報發行

前年に引續き會報を發行した。發行部數一ヶ月六千七百部。宣傳號、目的號に分ち會員に配布すべきものと、ある特定の目的(例ば婦人號、青年號の如く)のもとに分ち發行した。

(ロ) 講演、懇談、協議會

融和問題に關する講演、懇談、協議會開催の状況左の通り。

種別	開催月日	參會人員
海草支那幹部研究會	四月二十四日	八二名
有田支會幹部研究會	五月十七日	二三名
湯淺町附近實業家懇談會	五月十八日	一三名

御坊町附近實業家懇談會	八月十二日	一六名
工場講演會(日高紡績會社)	八月十二日	四五〇名
工場講演會(日出紡績日)	八月十四日	一、〇〇〇名
田邊町懇談會	八月二十四日	二三名
南部町講話會	八月二十九日	六〇名
第三回近畿融和(於縣會)	九月二十九日	四八名
和事業協議會(職事堂)	十一月二十八日	五〇〇名
周參見町講演會	十一月二十八日	三〇名
日置町協談會	十一月二十九日	四〇名
日置町講演會	十一月二十九日	一八名
支會長、副(於市會)	一月二十日	
支會長會議(議場)		

(5) 其他の施設

(イ) 獎學

同會獎學規程による賞與狀況の通りにして前年報告數に比し一七名を増加した。

郡名	大正十五年度	大正二十年度	總計
海草郡	五	一	六
那賀郡	二	一	三
伊都郡	二	一	三
有田郡	一	一	二
計	一〇	四	一四

(内一名は第二學期より退學)

日高郡	西牟婁郡	計
一	六	二五
一	一	二
四	一	一三
四	六	四〇

(ロ) 紹介輔導  
職業紹介に就ては内談的に交渉を受けたものだけなるも、その取扱數左の通り。

來職者數	就職者數	未了
四	二	二

就職者内課  
小學校教員 一名、 運送店員 一名

(ハ) 講師派遣  
地方青年會、婦人會、校友會等其他の會合に融和問題講演の爲申請のあつた場合、同會から講師を派遣した。その状況左の通

會名	月日	參集人員
那賀郡池田專修女學校々友會	五月八日	二〇〇名
有田郡湯淺警察署員講話會	五月十八日	二〇名
西牟婁郡朝來村婦人會	八月二十二日	一八〇講
海草郡加茂村婦人會	九月三十日	一五〇名
那賀郡粉河町婦人會	十月一日	二〇〇名

第三章 融和團體の活動

那賀郡上名手村青年會婦人會 十月七日 一八〇名  
那賀郡東部同和親睦會 二月十一日 一七〇名  
(二) 支會活動狀況  
縣下十六支會は地方の事情に應じて夫々活動してゐるが、其の顯著なるものを挙げれば左の通りである。

- 和歌山支會 十月五日於市内廣瀨小學校講演會開催、參會者一五〇名、
- 海草郡第一、第二、第三支會 眞生同胞會の事業助成
- 那賀郡第一支會 九月十三日から三日間池田專修女學校で青年會開催。講習員四名、其他眞生同胞會の事業を助成。
- 伊都郡第一、第二支會 十月四日伊都中學校に總會開催、參會者一二〇名。
- 日高郡第一、第二支會 五月一日から四日間日高郡南郡町に青年講習會開催。講習員六五名。
- 眞生同胞會の事業助成
- 西牟婁郡第一支會 五月二十二日から二十六日迄青年協議會開催。
- 東牟婁郡第二支會 町村巡回講演會
- (ホ) 眞生同胞會

同會又は支會主催青年融和講習會終了者を以て、眞生同胞會



































融和事業年鑑

二、融和促進父兄會——融和促進を圖るには一般家庭に於ける家庭教育に多大の效果あるを感じ學校當局者の了解を求め左記の通り融和促進父兄會を開催した。

(1) 日時場所

大正十五年	午後零時半集合	北中通村小學校	聴取約三百名
十二月十一日	午後一時開始		
十三日	同	多奈川村小學校	同 百五十名
十五日	同	鳴瀬村小學校	同 百五十名
十六日	同	淡輪村小學校	同 三百名
十七日	同	南中通村、長瀬村組合小學校	同 三百名
昭和二年	同	麻生郷村小學校	同 二百名
三月二十八日	同		

(2) 講話

學校と家庭の連絡及家庭教育と融和  
講師 大阪府社會課囑託 牧野 虎次

(3) 餘興  
講談師 旭堂 南陵

三、視察員派遣——昭和二年二月大阪府主催を以て神奈川縣地方へ社會事業視察の際同會より視察員として理事四名を派遣した。

四、理事會——昭和二年二月十八日開催。昭和二年度歳入歳出豫算並同年度事業計畫を協議し、更に同會々別の改正を圖り、廣く同會趣意を徹底せしむる爲會員の募集に努むることを議す。

五、理事囑託——同年三月一日右理事會の協議に基き、新に各町村長(従來の理事を除き)に理事を囑託した。

六、會員募集——同年同月各町村長に宛て職員募集の依頼狀を發した。

第三編 水平運動の現勢



第三篇 水平運動の現勢	(三五)
第一章 概説	(三七)
第二章 第五回全國水平社大會	(三七)
(一) 第一日	(三七)
(二) 第二日	(三七)
(三) 保留となつた宣言	(三八)
第三章 水平社の組織	(三九)
(イ) 宣言	(三九)
(ロ) 綱領	(四〇)
(ハ) 決議	(四〇)
(ニ) 規約	(四〇)
第四章 新設團體	(四三)
(1) 全國水平社解放聯盟	(四三)
(イ) 趣意書	(四三)
(ロ) 標語	(四三)
(2) 全國水平社労働農民黨支持聯盟	(四三)
(イ) 宣言	(四四)
(ロ) 規約	(四四)
(3) 日本水平社	(四五)
(イ) 署名書	(四五)
(ロ) 綱領	(四六)
(ハ) 宣言	(四六)
(ニ) 則	(四六)
(ホ) 決議	(四七)

### 第一章 概説

創立後四年間、一貫したる運動を續けて來た水平社も大正十五年に至つて終に分裂を見るに至つた。分裂の聲が傳へられたのは、既に第三年頃であつて、第四年の大會前、全國無産青年同盟が勢力を擴大するに伴ひ、舊幹部の除外、雜誌「無産大衆」の發行等従來の水平運動とは大分異つた傾向を帯びて來たことに端を發してゐる。が大正十五年に入つて前中央執行委員長南梅吉氏隱退、其他の事件等あつて以來、益々水平社左傾の具體的運動が漸く濃厚となつた。

斯くて第五回全國水平社大會に於て提出された宣言、綱領の如きは明らかに此の傾向の具體化と見るべく、更に大會後に於ては、水平社の一部に依つて全國水平社労働農民黨支持聯盟創立準備協議會なるもの成立し、労働農民黨を支持することを決し、水平社が普選實施を機として、徹底的糾弾のみではその目的を達し難しとして、政治行動によるべしとなし、敢然政治運動に一步を踏み出した。

ところで、此の傾向に反對して一部には水平運動の左傾派排斥の聲が喧しくなつて、創立當時の人間禮讓思想を守り立てんとする傾向を生じ、終に分裂を見るに至つたのである。名古屋に於ける全國水平社解放聯盟の結成、次いで南梅吉氏等に依る右翼標榜の日本水平社の創立をはじめ、各地方々々

に於てもこうした一脈の傾向が生じて今日に至つたのである。

### 第二章 第五回全國水平社大會

第五回全國水平社大會は大正十五年五月二日から二日間に亘つて、福岡市大博劇場で開催された。

(一) 第一日

二日午前十一時半から開會、本部及び全国各地代表者等千數百名出席し、議長に中央執行委員長松本治一郎氏、副議長に梅津高次郎、成塚政之助兩氏を推して、議事に入り、左の諸件が協議された。

一、綱領改正の件(委員附託)

二、第五回宣言發表の件(保留)

三、規約一部改正の件(委員附託)

四、故松本源次郎君の墓參の件(緊急動議可決)

(二) 第二日

三日午前十一時から前日と同じく會場大博劇場に於て開會した。

定刻松本議長着席し、本會議に入り、左の諸件を協議した。



- 一、融和聯盟提議の件(可決)
- 二、水本社を暴力開闢視する政府當局に抗議するの件(委員附託)
- 三、婦人水本社の全国連絡を圖るの件(可決)
- 四、全日本農民組合同盟に對する態度決定の件(可決)
- 五、水本社少年部統一の件(緊急動議、保留)
- 六、メーデー参加の件(自由参加、可決)
- 七、智恩院の差別事件糾弾の件(緊急動議可決)
- 八、維持員制度の徹底を期するの件(委員附託)
- 九、水本歌統一の件(可決)
- 一〇、軍事教育反對の件(可決)
- 一一、労働組合組織促進の件(可決)
- 一二、徽章制定の件(可決)
- 一三、部落内部の失業問題に關する件(可決)
- 一四、犠牲者慰問救済の件(委員附託)
- 一五、無産團體協議員會設置の件(可決)
- 一六、出版物に現はれたる差別に關する件(可決)
- 一七、機關紙統一の件(撤回)
- 一八、水本社教育方針確立の件(可決)
- 一九、無産政黨支持の件(保留)

(三) 保留となつた宣言

我が水本運動は今や過去に於て幾多の誤謬と過失を犯し來つたブルジョア自由主義的指導精神を放棄する。  
 吾等は、運動の上に宗教的陶酔の映を投げて輝いた人間意識の星は、其の夢幻的尤花を失ふて流れ盡ち、新しき星は實に融和開闢

念の存在理由を容認する資本帝國主義との現實的闘争に輝く。  
 惟ふに水本運動がその初期に於て他迄も團結の鞏固と熾烈なる奮闘を誇りとして遺憾なき擴大性を現はせるに拘らず、早くもその進展性を失へる事實は、その多くが徒らに個體困窮なる民族意識による皮相的部分的糾弾に終始し眞に明確なる階級意識の上に行はれる差別撤廢運動のみがよくその階級觀念を徹底的に掃蕩し得る所以を以て没却し従つてこの進展性を失へる運動の所謂無組織の組織なる擴大は反つてその焦燥と倦怠のうちに容易に支離階級に乗ずべき機を與へて既成政黨に買収されたる幹部の野合、露骨なる當局の暴壓と融和運動の跳梁或ひは執拗殘忍なる暴力闘争の組織等の反動勢力の高漲によつて、運動が攻守の勢ひを轉ずるやその誇りとせる意氣と團結は、恰も醇漢の烏合に等しき無力さを容れなく暴露した。斯くの如きは實に從來の指導精神による當然の破綻に外ならぬ。

然しながら、我等は此の破綻の當然を率直に承認し、新しき指導精神を確立する事によつて、始めて運動を躊躇なく進展せしめ眞にその團結を鞏固ならしめ得る事を信ずる。然らば我等の新しき太陽の回歸を告げる現實闘争の輝きは何處より來るか。

凡そ或る社會に存在する風俗習慣は、其の制度形態に伴ひ、其の制度形態は社會を組織する各個人の間における生産と分配の社會的過程に就ての關係によつて左右される。この關係を作るものは、實に社會の基礎をなす生産力の一定の發達程度なるが故に、總ての思想は、その基礎をなす經濟狀態が變化せる場合當然その勢力を失ふ。

更に經濟上の利害に基く階級に分れる社會にあつては或時期に行はれる思想は、單に一定の經濟狀態の結果たるのみならず、主としてこの經濟狀態によつて優越的地位を占めつゝある階級の要求に應ずるものである。

故に我等は、人間の生活を決定するものは人間の意識にあらずして人間の意識を決定するものこそ其の社會生活である所以を知り、從て現代社會における階級觀念の存在理由を容れなく決別しそれが殊に我が國の如く多分に封建的要素を保有せる資本主義社會にあつて、如何に重要な反動作用をなしつゝあるかを白日の下に暴露し、之を徹底的に糾弾することによつて差別撤廢の實を擧げんとするものである。されば水本運動と一般融和運動との本質的差異は、實に此現實的闘争に輝く明確なる階級意識の有無にあらねばならぬ。

水本運動は、今や舊指導精神より脱せんとする嵐と備みの中より更生して、展け行く第二期闘争の曠野を前にして我等はその糾弾をたゞに個々の差別的事實に止めず、それを支持し容認せる不合理なる社會組織に迄徹底せしめることを宣言する。全國の特殊部落民團結せよ。

大正十五年五月

全國水本社第五回大會

第三章 水本社の組織

(一) 宣言

全國に散在する吾が特殊部落民を團結せよ。

第三章 水本社の組織

長い間虐げられて來た兄弟よ。

過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等が爲の運動が、何等の有難い効果を齎さなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて又他の人々に依つて毎に人間を胃潰されてゐた罰であつたのだ。そして、これ等の人間を動かすかの如き運動はかへつて多くの兄弟を墮落させたことを想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは寧ろ必然である。

兄弟よ。

吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり、男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮を剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は涸れずにあつた。そうだ。そうして吾々は、この血を享けて、人間が神にかはらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その荊冠を脱帽される時が來たのだ。

吾々がエタであることを誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲とによつて祖先を辱め人間を胃潰してはならぬ。



そうして人の世の冷たさが何んなに冷たいか、人間を動かす事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人世の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日

全國水平社

(口) 綱 領 (一部改正)

我等は人類最高の完成を期して左の諸項を遂行す。

一、特殊部落民は部落民自身の行動に依つて絶對の解放を期す。

一、我等特殊部落民は絶對に經濟の自由と職業の自由を社會に要求し以て獲得を期す。

一、我等は賤視觀念の存在理由を識るが故に明確なる階級意識の上でその運動を進展せしむ。

(ハ) 決議

一、我々に對し穢多及び特殊部落民等の言行に依つて侮辱の意志を表示したる時は徹底的糾弾を爲す。

一、向後二十年間我等部落寺院及信徒に對し如何なる名義による募財をも中止されたきこと。

之は一切の幸福を奪はれてゐた我々の祖先を、死んで極楽に行ける等と騙し、多くの信徒から搾つてゐた東西兩本願寺の責任者に通告したものである。

一、徳川一門に對し辭符勸告の件  
一、水平運動は政黨政派に超越するの件

(二) 規 約 (一部改正)

第一章 名稱及目的

第一條 本團體ハ全國水平社ト稱シ本部ヲ大阪市ニ置ク

第二條 本團體ハ本團體ノ綱領ニ基キ、特殊部落民ノ完全ナル解放ヲ目的トスル特殊部落民ヲ以テ組織スル

第三條 本團體ハ前項ノ目的ヲ達スルタメニ左ノ事業ヲ行フ  
一、各種ノ研究、一、各種ノ調査、一、各種ノ出版、一、講習會、一、演說會

第二章 機關

第四條 本團體ニ左ノ機關ヲ置ク

全國大會、中央委員會、特別委員會、聯合會委員會、府縣水平社委員會、町村水平社委員會

第五條 一、全國大會ハ本團體ノ最高機關ニシテ、中央委員會及ビ各町村水平社、及ビ中央委員會ノ認メタル青年、婦人、少年少女水平社ノ代議員ヲ以テ組織スル。但シ中央委員ハ發言權ノミヲ有ス

二、全國大會ハ毎年一回開催シ、中央委員會之ヲ召集ス、開催地及ビ日時ハ中央委員會ニ於テ決定シ發表ス。但シ前項以外ノ場合ト雖モ中央委員會、或ハ特別委員會ノ要求ニヨリ中央委員會ガソノ必要ヲ認メタルトキ、又ハ全國各町村水平社、青年、婦人、少年、少女水平社、總數ノ三分ノ二以上ノ要求アリタルトキハ臨時全國大會ヲ開クコトヲ得。

第七條 一、地方的特殊事件ノ發生シタル場合ハ府縣水平社委員會或ハ町村水平社委員會ニ中央委員二名ヲ加ヘテ特別委員會ヲ組織スルコトヲ得

二、特別委員會ハ該事件ニ關シテ必要ト認メタルトキハ臨時全國大會ヲ中央委員會ニ要求スルコトヲ得

三、特別委員會ハ該事件ノ終了シタルトキハ解散ス

第八條 一、聯合會委員會ハ府縣水平社ノ代表者ヲ以テ組織ス  
二、府縣水平社委員會ハ該府縣内ニ於ケル町村水平社、青年婦人、少年、少女水平社ノ代表者各一名ニヨリテ組織シ府縣内ニ於ケル事務ヲ處理シ毎月一回以上例會ヲ開キソノ事情ヲ中央委員會ニ報告ス

二、府縣委員三十名以上トナリタルトキハ市郡ヲ單位トシテ分割スルコトヲ得。但シソノ際ハ府縣委員會ノ下ニ市郡委員會カ存在スルモノニシテ、府縣委員會ハ市郡委員會ノ代表者ニヨリテ組織スルモノトス

第九條 各町村水平社、青年、婦人、少年、少女水平社ハ、所定ノ委員ヲ選出シ委員會ヲ組織ス。委員會ハ各水平社ノ庶務ヲ處理ス

第三章 組織

第十條 各部落内ニ三名以上ノ維持員アリタルトキハ府縣委員會ノ承認ヲ經テ水平社ヲ設置スルコトヲ得

第十一條 各府縣ニ於テ三個以上ノ水平社アリタルトキハ中央委員會ノ承認ヲ經テ府縣水平社ヲ組織ス。但シ二個以下ノ場合ハ中央委員會ニ於テ特別ノ承認ヲ經テ設置スルコトヲ得

三、代議員選出ノ割合ハ維持員十名ニ對シ、一名トシ以上二十名ヲ増ス毎ニ一名ヲ増加シ、三名ヲ以テ限度トス

維持員十名以上アルニ非ザレハ代議員ヲ選出スル事ヲ得ズ

第六條 一、中央委員會ハ全國大會ヨリ次期大會ニ至ル最高機關ニシテ、大會ノ決議ニ基キ諸般ノ事務ヲ處理シ、大會ニ對シテ責任ヲ負フ

二、中央委員會ハ全國大會ニ於テ各聯合會ヨリ選出サレタル若干名ノ中央委員ヲ以テ組織ス但シ青年及ヒ婦人水平社ハ千名以上ノ維持員アリタル場合ハ聯合會ヲ作ル事ヲ得

三、聯合會組織ハ附則ニ於テ之ヲ定ム

四、中央委員ノ任期ハ次期大會マデトス

五、中央委員ニ缺員生シタルトキハ中央委員會ノ要求ニヨリソノ缺員聯合會ノ委員會ニテ補缺選出ス

六、中央委員會ハ全國的協議ノ必要アル時ハ各府縣水平社委員會ノ責任アル代表者ヲ召集スルコトヲ得

七、中央委員會ハソノ統制ノモトニ左ノ専門部ヲ置ク

一、調査部、一、組織部、一、出版部、一、政治部

八、中央委員會ハ各専門部ノ委員ヲ任命シ且各該部ノ規約ヲ定ム

九、中央委員會ハ三ヶ月ニ一回以上中央委員會議長ノ召集ニヨリ開クモノトス

十、中央委員會ハ常任理事若干名ヲ選定ス

十一、理事ハ各事件ヲ分掌シ中央委員會ニ對シ責任ヲ負ヒ中央委員會ノ承認ニヨリテ有給委員タルヲ得ルモノトス

第二章 第五回全國水平社大會



第十二條 各府縣水平社ハ中央委員選出ノ割當縣別ニ應シテ聯合會ヲ組織ス

第十三條 各町村水平社、府縣水平社及ヒ聯合會細則ハ町村水平社ニ於テハ維持員ニヨリテ、府縣水平社ニ於テハ町村代表者ニヨリテ、聯合會ニ於テハ府縣代表者ニヨリテ決定シ、中央委員會ノ承認ヲ經ルモノトス

第十四條

全國水平社ノ經費ハ水平社維持員ヨリ徵收シ之ニ充テル。但シ維持費ハ大會ノ決議ニヨリテ之ヲ定ム

第十五條

維持員タラントスルモノハ、全國水平社ノ宣言、綱領決議及ヒ規約ヲ承認シ、各町村水平社ニ申込み、ソノ承諾ヲ要スルモノトス

維持員ハ年額金十錢ヲ維持費トシテ全國水平社ニ納入スルモノトス

各町村水平社維持員ハ町村水平社委員ノ選舉及ヒ被選舉權ヲ有ス

第十六條

中央委員會ハ全國水平社ノ趣旨ニ反シ、規律ヲ紊シ、決議ヲ蹂躪シ不正ナル行爲ヲ爲シタル者ヲ運動ノ圍外ニ置ク

第十七條 全國水平社本部理事、専門部員中央委員ハ他團體ノ之ト同等ノ委員タルコトヲ得ス、但シ中央委員會ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限リニ非ス

第十八條 聯合會區域ヲ左ノ如ク定ム

關西聯合會 (大阪、兵庫、和歌山)

近畿聯合會 (京都、奈良、福井)

江勢聯合會 (三重、滋賀)

中國聯合會 (岡山、廣島、山口、島根、鳥取)

九州聯合會 (全九州)

四國聯合會 (全四國)

中部聯合會 (岐阜、愛知、静岡、新潟、富山、石川)

關東聯合會 (群馬、埼玉、栃木、千葉、長野、群馬、茨城、山梨、奥羽地方)

青年團體

第十九條 本規約ノ改正ハ大會出席代議員三分ノ二以上ノ賛成ヲ要ス

大正十四年五月八日 全國水平社

第四章 新設團體

(1) 全國水平社解放聯盟

東京、大阪、京都並に長野、埼玉、静岡、愛知、三重、廣島の各府縣の水平社有志は、水平社運動が近來共產主義化しつつあるを慨し、水平運動の本流に立還るべく本解放聯盟を

結成し、事務所を名古屋市西區平野町に置いた。

(イ) 趣意書

我等は淺薄なる老婆心と、徒らなる憂慮とを捨て、嚴密にその

何人も反對する如く我等も亦分黨に反對する。が故に分黨の因を爲す分子を排除し、以て戰線の統整を圖らなければならぬ。

我等は、この重大時期に當面して黙止するに忍びず、敢然として水平運動の本流を闡明し、強權的主張を排し、人間本來の性情たる相互扶助的精神の徹底と、自由合意に據る組織の實現の時にのみ我等の全き解放があるとの信念の下に、茲に同志の堅き糾合

成りて水平社解放聯盟を結成した。

全國に散在する我等兄妹よ!

我等は我等の荊冠旗(黒旗)を守り、斷じて旗色を變へず、進むべき道を勇敢に邁進すると共に水平運動の戦線の擾亂せんとする一切の敵に對して戦ひを誓ひ我等特殊部落民の全き解放を期せんとするものである。

(ロ) 標語

一、エタの解放はエタ自身の行動に依らねばならぬ。

一、我等は自由聯合主義を基調とする。

一、差別と搾取に抗争せよ。

一、融和運動を撲滅せよ。

一、政治運動屋を排撃せよ。

一、共產黨一派及職業的運動屋を驅逐せよ。

一、暴壓法令の撤廢。

(2) 全國水平社勞農黨支持聯盟

水平社同人は、第五回大會まで政治運動は保留となつて、政治的戦線に立つことを避けてゐたが、普選を前にひかへて

依つて來る原因を究明し、以て部落民解放運動の徹底を期せねばならぬ。

我等が今、聲を大にして我が同胞の記憶を呼び起さねばならぬことは

「特殊部落民は部落民自身の行動に依つて絶対の解放を期す」の全國水平社の綱領を蹂躪して、部落なるが如く裝ひ内部に喰ひ入つて水平運動の乗つ取り策を講じつゝあつた共產黨の傀儡問題である。と同時に、貞樹をしてその使命を果さしめんと畫策した日本共產黨一派の陰險狡猾なる奸策である。

彼等は普て労働組合運動、社會運動を擾亂し、全國的總聯合を分裂せしめ、總同盟の横奪を謀り、近くは東京市電自治會に内紛を惹起せしめ、日本農民組合内部にその魔手を延ばし、現に東京芝浦労働組合をも乗取らんとして、ロシア直傳(利用、擾亂、煽動)の奸策を施しつゝある。

斯くの如く、無産階級解放運動の陣營を亂し、自己の權勢を張ちんとするに手段を選ばざる彼等はブルジョア政黨の常套手段をそのまま繼承し、實行しつゝある。

我が水平運動も亦危く彼等の毒手に斃れんとした。日本社會運動の戦線をして、今日の混亂に至らしめたものは、日本共產黨の権力慾の然らしめるところであることを以上の事實に見ても斷げんし得る。殊に戦線分裂の因を作り、之を行ひながらその責任を轉嫁して、彼等一流の屁理屈を並べ、お題目を唱へての裏切呼ばはりに至つては醜又陋、盗人猛々しきの極みである、實に彼等は

被搾取、被支配階級の敵である。

第四章 新設團體

二八三



同社の政治的勢力の總動員をなすべく一刻も猶豫すべき時でないといふ趣旨で、大阪、京都、奈良、其他十縣の水平社一部の有志が發起となりその準備協議會を十月二十二日大阪市九條會館で開いて労働農民黨支持聯盟を創立することとなつた。

(イ) 宣言

過去に於ける徹底的の弾圧は無産階級運動の一部であるべき水平運動をして其の支配を存せしめんが爲に、あらゆる手段によつて大衆の眼に本来の階級利害の對立を蔽ひ隠さうとするブルジョアの術數に策應したかの想を抱かしむる迄に水平運動をして反動的觀念闘争に導いた。

吾等は過去の誤謬と過失を大膽に承認するものであると同時に自由主義的指導精神の放棄と、賤視觀念の存在理由を容認する資本帝國主義に對する闘争にまで徹底的の弾圧を進行することのみが水平運動の上に進展性を齎らすものであることを知る。

過去の徹底的の弾圧を巧みに利用する事に依つて階級利害の對立を蔽ひ隠さうとする必然的産物として生れた融和運動は水平運動の行詰りと水平運動に對する骨幹なる支配階級の彈壓の下に蹂躪してゐるのみか、今や國策樹立其他の美名の下に部落民大衆の政治勢力を利用することに依つて反動軍としての形態を組織せんと企てゐる。水平黨の計畫の如きは其の最も甚だしきものであらねばならぬ。

今や資本主義支配は從來の形態を持續し得ぬ行詰りを打開せん

(ロ) 規約

第一章 名稱及目的

第一條 本聯盟ハ全國水平社労働農民黨支持聯盟ト稱シ本部ヲ大阪市ニ置ク

第二條 本聯盟ハ本聯盟ノ運動方針ヲ遂行スルヲ以テ目的トス

第二條 本聯盟ハ本聯盟ノ宣言、運動方針及決議ヲ承認スル特殊部落民ヲ以テ組織スル

第四條 一部落二十名以上ノ會員アルトキハ常任委員會ノ承認ヲ

全國水平社労働農民黨支持聯盟大會  
一九二六、一〇、二二

經テ市町村支部ヲ組織スルコトヲ得  
第五條 一府縣ニ於テ二個以上ノ支部アルトキハ常任委員會ノ承認ヲ經テ府縣聯合會ヲ組織スルコトヲ得

第三章 總則

第六條 全國委員會ハ本聯盟ノ最高決議機關ニシテ府縣聯合會ヨリ二名ノ割當ヲ以テ選出シタル委員ヲ以テ構成ス

第七條 全國委員會ハ必要ニ應ジ開催シ常任委員會之ヲ招集ス

第八條 常任委員會ハ全國委員會ヨリ次期全國委員會マテノ決議機關ニシテ同時ニ全國委員會及ヒ常任委員會ニテ決議セラレタル事項ヲ執行スルモノトス

第九條 常任委員會ハ一ヶ月ニ一回以上定期ニ開催シ常任委員長之ヲ招集ス

第十條 常任委員ノ補助機關トシテ政治、組織、教育出版財政ノ各專門部ヲ置ク

第四章 會計

第十一條 本聯盟ノ經費ハ本聯盟會員ノ會費ヲ以テ之ニ充テル

第十三條 會費ハ一ヶ月金拾錢トス 以上

(3) 日本水平社

這般創立された労働農民黨支持聯盟の政治的行動は水平運動に反し、且つ現在の水平運動は左傾してをるとの見地からあくまで水平社創立當初の純水平運動を以て、解放を期せんとする水平社幹部部、及び大阪、京都、兵庫、鳥取、山梨、福井、愛知、静岡、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、長野、

第四章 新設 團體

滋賀、三重、神奈川の二府十五縣に於ける有志が、昭和二年一月五日京都市南梅吉氏宅に會合、協議の結果、前記目的を達する爲に、新に日本水平社を創立し、全國總部は南梅吉氏宅に置くこととした。

(イ) 聲明書

水平運動起リて以來、諸種の運動中、未曾有の發展を遂げ、その所期の目的の達成を計り來れるが、今や、政治に經濟に、その充實を要求せらるゝの急切なる時、然かも、その隆盛の一方には或は運動を一般社會運動と同じく左傾に走り、又はこれに借口して右傾の手足となるものありて、創立當時の所期に反し、反つてその團結の力を弱め疑念を買ひ、われ等同族の面目を汚辱し、或はこれを利用して一部の私利に供せむとするものなり。

斯くの如くんげ、たとひ新社會出現の時來るとも、或は榮光水平の道程の開けて通り得る道を望むの秋ありとも、われら兄弟全族はたゞ一部の利用の辱づべく悲しむべき犠牲となりて、依然困憊と侮辱のドン底に沈淪呻吟するの他なかるべし。われら水平社創立以來、誠心誠意、同族全般の福利のために、正當正義にして堅實なる一路に突進するもの、この現状を想察して袖手坐視するに忍びず敢然、茲に、水平社創立當時の本旨を失せず、他の一般社會運動と混合することなく、吾が部落三百万同族の徹底解放のため、既成政黨に超越し、新興政黨に附加することなく、眞に、明治大帝の「億兆、一人その處を得ざるものあるはこれ朕が罪なり」との、たゞ感泣措く能はざる聖旨に銘して、



今日既に認められたる正義の上に、速かに堅實に、部落民解放の實を致すべく、則ち同志集り、新に日本水平社を創成し純真確乎たる團結を成就せむとす。

(口) 綱 領

一、特殊部落民は部落民自身の行動によつて絶対の解放を期す。  
一、吾等は絶対に經濟の自由と職業の自由を社會に要求し以て獲得を期す。

一、吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す

(ハ) 宣 言

全國に散在する吾が特殊部落民と團結せよ。  
長い間慮められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と多くの人々によつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を賤視されて来た罪であつたのだ、そしてこれ等の人間を動かすかの如き運動は、かへつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此の際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、むしろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた陋劣なる階級政策の犠牲者であり勇ましき産業的殉教者であつたのだ、ケモノの皮制り報酬として、生々しき人間の皮を制取られ、ケモノの心臓を裂く代償として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪

七、各府縣地方水平社の規約は各々任意とす。  
昭和二年一月

京都市上京區鷹野北町八番地  
日本水平社總本部

(水) 決 議

一、宣言綱領は第三回全國大會以前の者を遵守す。

一、名稱 日本水平社總本部。

一、各地水平社の名稱は従前の區別の上に日本何々縣々何々村水平社と記入すること。

一、總本部を京都市上京區鷹野北町八番地に置く。

一、組織機關を執行委員制度とす。

中央執行委員會 南 梅 吉  
中央委員は未定(大會迄は協議會出席者を以て準備委員とす)  
準備委員左の如し。

- 北村庄太郎 岸田 民藏 三宅庄太郎 坂本 清作
- 植松鍋一郎 植松丑五郎 川島 米次 山口 靜
- 澤口 忠藏 辻本 晴一 小山菊太郎 高倉 炭造
- 宮崎 勤六 清水 喜市 駒井 力造 今池 權吉
- 今池丈太郎 北田 勇吉 石田 數夫 渡邊豊次郎
- 藤田吉三郎 西村幸三郎 佐野信三郎 外二十名

- 一、顧問 二名推選
- 一、本部維持費は同人及び援助者の離出金を以て之に充つ
- 一、本部機關紙として日本水平新聞發行の件

第四章 新設 團體

夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、潤れずにあつた。そうだが、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者がその荊冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によつて、祖先を辱しめ、人間を賤視してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を動かす事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。  
日本水平社は、かくして生れた。  
人の世に熱あれ、人間に光あれ。

(ニ) 制 度

一、各府縣水平社は日本水平社に加盟したる各地の個人又は團體に依つて組織す。各二名以上の執行委員を選舉すること。

二、日本水平社總本部は京都市に設置し地方執行委員に依つて中央執行委員長一名、書記長一名、若干の執行委員を選舉すること。

三、中央執行委員長は春秋二回の大會を司催し地方執行委員を日本水平社會議に召集する権能を有す。

四、地方執行委員は全國水平社會議の口權を中央執行委員長に提議することを得。

五、地方執行委員は各選舉者の三分の二以上の信任を缺く場合は其の資格を失す。

六、各地水平社は日本水平社綱領宣言に依り自由の行動を取るこ

一、専任顧問持護士 岡田豊太郎氏

一、徹底的糾弾戦術は道徳的説示

一、部落解放の功勞者と徹底解放の協議機關設置の件

一、政黨政派に超越の件

一、共產主義者徹底排撃の件

一、全國各水平社大同團結促進の件

一、全國大會を京都に於て三月三日に開催の件

一、各本部より通知に接したる犠牲者を慰問す並に犠牲者協議機關の件

一、國有地及び耕地整理調査の件

一、各部落全般産業状態調査の件

一、部落改善費使途徹底調査の件

一、官公省及び各工場に同人採用の状況調査の件

一、同人の小作及び工場労働争議に關しては一般労働組合小作組合に依らず直接日本水平社の手に依て解決するの件



第四編 研究資料其他







融和事業年鑑

貧民富と少數同胞	同	一	二	井上貞藏
水不運動の精神(パンフレット)	同	一	二	栗栖七郎
種多族に關する研究(發賣禁止)	同	一	二	菊地山哉
同胞諸和の道	同	一	二	三好伊平次
水不運動(パンフレット)	同	一	二	留岡幸助
眞の解放を希望して	同	一	二	篠崎蓮城
醒めたるもの(款き)(パンフ)	同	一	二	日野熊太郎
水不小言(パンフレット)	同	一	二	綿織恭道
特殊部落一千年史(發賣禁止)	同	一	三	高橋貞樹
特殊部落史(特殊部落一千年史改題)	同	一	三	同
水不審判の日	同	一	三	栗栖七郎
水不の行者	同	一	三	栗栖七郎
播磨に於ける特殊部落成立の傳説	同	一	三	藤本政治
不幸の同胞小研究	同	一	三	加藤弘造
水不運動批判	同	一	三	佐野一男
解放の雄叫び	同	一	四	田中邦太郎
水不民族史物語	同	一	四	西村文則
この差別を見よ	同	一	四	吉野浩
人類	同	一	四	坂本清
人類	同	一	五	坂本清
愛(第一編)	同	一	五	坂本清
愛(第二編)	同	一	五	坂本清

(一) 官公署並に團體の出版に係る者

特殊部落改善の概況	(明治四〇年)	三重
特殊部落風改改善方法及其事業	(同 四二年)	鳥取縣西伯郡
香川縣縣外視察報告	(大正 六年)	香川縣
社會改良の案	(同 七年)	鳥取縣
第一回代表者協定事項	(同 七年)	鳥取縣
第三回管外協風事績視察報告書	(同 七年)	鳥取縣
第一回部落改善協議會記錄	(同 八年)	鳥取縣
大正七年度郡市矯風事業一班	(同 八年)	鳥取縣
廣島縣部落狀況	(同 九年)	廣島縣
部落改善に關する參考資料	(同 九年)	兵庫縣
部落改善施設	(同 一〇年)	鳥取縣
地方改善概況	(同 一〇年)	鳥取縣
管外優良部落視察報告	(同 一〇年)	鳥取縣
優良部落視察概要	(同 一〇年)	鳥取縣
地方改善少鑑	(同 一一年)	鳥取縣
愛媛縣部落改善事業概要	(同 一一年)	愛媛縣
部落改善の概況	(同 一一年)	愛媛縣
埼玉縣地方改善事業概況	(同 一一年)	內務省社會局
地方改善方針	(同 一二年)	埼玉縣
總ての人の握手	(同 一二年)	大谷本願寺
地方改善事業一斑	(同 一二年)	同
地方改善事業に就て	(同 一三年)	同
地方改善事業	(同 一三年)	同

第一回一心會總會狀況	(同 一三年)	鳥取縣 一心會
縣外優良地方視察報告	(同 一三年)	栃木縣
歷史上より見たる差別撤廢問題(喜田貞吉氏述)	(同 一三年)	中央社會事業協會
人類教化史上より見たる差別觀の運命(長田新氏述)	(同 一三年)	同
教育及宗教上より見たる地方改善事業(吉田賢龍氏述)	(同 一三年)	同
謂はれない差別觀念の撤廢	(同 一三年)	同
人間意識の發達(小林照郎氏述)	(同 一三年)	埼玉縣社會事業協會
社會事業家の要性(山室軍平氏述)	(同 一四年)	中央社會事業協會
地方改善の榮	(同 一四年)	同
差別撤廢	(同 一四年)	群馬縣
鳥取縣一心會縣外視察報告	(同 一四年)	滋賀縣社會課
融和問題並水不運動を政府は如何に觀るか	(同 一四年)	鳥取縣一心會
同胞融和	(同 一四年)	山口縣社會事業協會
世の融和	(同 一四年)	本派本願寺
國民懺悔の運動	(同 一四年)	同
吾人の行くべき途	(同 一四年)	京都府親和會
地方改善に關する調査	(同 一五年)	茨城縣
融和促進(喜田貞吉氏述)	(同 一五年)	中央融和事業協會

第一章 融和問題研究資料

文化の開展と融和の精神(加藤唯堂氏述)	(同 一五年)	中央融和事業協會
維新前後に於ける解放運動(三好伊平次氏述)	(同 一五年)	同
隣保事業と融和問題(海野幸徳氏述)	(同 一五年)	同
我等の使命(守屋榮夫氏述)	(同 一五年)	同
融和問題に對する歴史的考察(喜田貞吉氏述)	(同 一五年)	同
融和事業年鑑(大正十五年版)	(同 一五年)	同
地方改善執務提要	(同 一五年)	岡山縣
愛媛縣地方改善事業概要	(同 一五年)	愛媛縣
縣外視察記	(同 一五年)	鳥取縣一心會
部落問題の現状に鑑み取て貴衆兩院議員に訴ふ	(同 一五年)	全國融和聯盟
融和問題講演集	(同 一五年)	廣島縣
融和運動	(同 一五年)	本派本願寺一如會
同胞敬愛	(同 一五年)	靜岡縣
懺悔小編(武内了温氏述)	(同 一五年)	全國融和聯盟
善鄰節事業講話	(同 一五年)	滋賀縣
融和運動の精神	(同 一五年)	大府
融和のすゝめ	(昭和 二年)	岡山縣協和會
猶太人問題(新見吉次氏述)	(同 二年)	中央融和事業協會
融和事業講演集	(同 二年)	大阪府



融和事業年鑑

Table with 3 columns: Title, Year, Author/Organization. Includes entries like '地方改善の二大要義' and '融和問題の概観'.

第二節 新聞雑誌に現れたる研究論策

Table with 3 columns: Title, Year, Author. Lists various articles on '新平民' and '融和' from newspapers and magazines.

Table with 3 columns: Title, Year, Author. Continuation of the list of research articles on '新平民' and '融和'.

Table with 3 columns: Title, Year, Author. Lists articles on '合理的改善策' and '日本個々の社會問題'.

第一章 融和問題研究資料

Table with 3 columns: Title, Year, Author. Lists research materials on '四海同胞' and '大和に於ける唱門師の研究'.



特殊部落發生史	(同 一〇年 八月)	倉光清六
滋賀縣の特殊部落に就て	(同 一〇年 九月)	芳賀榮造
部落民と其周圍	(同 一〇年 九月)	伊那玄夫
伊豫の部落民に對し	(同 一〇年 九月)	前田三遊
部落民の人生觀	(同 一〇年 五月)	村上三遊
關西の特殊部落	(同 一〇年 一月)	吉井顯存
特殊部落に生れ立派な學士の妻になつた姉の幸福	(同 一〇年 一月)	民子
おゝ呪れたる穢多村よ	(同 一〇年 二月)	刀橋幸子
部落改善事業	(同 一〇年 二月)	留岡幸助
大粒の涙を流しながら	(同 一〇年 二月)	刀橋幸子
新平民を妻とした帝大生の末路	(同 一〇年 二月)	關野豐作
部落解放の根本義	「表現」第二卷第一號	海野幸徳
民族運動か社會運動か	同上	佐野學
特殊部落問題に就ての考察	同上	山本美越乃
同情相愛の浪を掬ふて	同上	前田三遊
社會の理想化と特殊部落	同上	岡本三遊
岡山縣地方改善小史	(大正一〇年一〇月)	三好默軒
堪え得ぬ悩み	(同 一〇年 一月)	三好默軒

愛に満てる世を望みて	(同 一〇年 八月)	有馬頼寧
人生兩面の調和	(同 一〇年 九月)	後藤文夫
五ヶ條詔勅と部落解放	(同 一〇年 九月)	菊地茂
死生の巷より	(同 一〇年 九月)	岡田鐵拳
部落改善策	(大阪朝日)	前田三遊
消化し難き彼我の人物觀	(廣島毎日)	社説
同胞の解放	(報知)	武内了温
差別撤廢運動の事實と其將來	(日出)	大鳥居古城
階級觀念の根本的解放	(大阪時事)	社説
階級事業と水戸社運動	(同 愛)	柳田毅三
一般の皆操へ	(同 愛)	有馬頼寧
總ての人の握手	(同 愛)	大迫元繁
合法的差別と不合理な差別	(同 愛)	大谷登昭
社會事業より見たる地方改善	(同 愛)	清水精一
乞食論	(同 愛)	清水精一

差別すべきものあり	(時事)	社説
族稱廢止の理論	(大毎)	社説
水戸社の運動に就て	(時事)	三浦参玄洞
水戸平哀話	(讀賣)	社説
因襲打破の建議、寧ろ笑殺すべし	(大阪朝日)	社説
弱き者は虐げらる	(備前日々)	前田三遊
水戸運動と宗教意識	(時事)	如天生
社會運動としての水戸運動	(時事)	不盡生
巷を覗きて	(時事)	馬場孤蝶
水戸運動と猶太民族運動	(時事)	滿川龜太郎
種多に關する史的沿革	(時事)	羽田劍峯
第二回水戸大會の真相	(時事)	春日逸人
第二回水戸大會傍聴記	(時事)	杉並高三郎
水戸大會特派記	(時事)	饒平名智太郎
水戸運動の一ヶ月	(時事)	阪本清一郎
水戸社の社會運動	(時事)	山形東根
特殊部落問題	(時事)	神戸正雄
水戸社問題	(時事)	三上ドクトル
水戸運動と諸政黨	(時事)	西田卯八
水戸運動と環境	(時事)	澤村晴天
史上より見たる水戸社	(時事)	吉野作造

水戸運動の概観	(實生活)	中保生
屈辱史を抹殺して雄偉なる勃興史を書き來れ	(時事)	前田三遊
水戸社運動に關する一考察	(時事)	山形東根
水戸運動と其戦士	(時事)	猪原榮一
女學校で排斥された部落の娘の告白	(時事)	山村澤子
生命を賭した戀をも捨てた部落の娘	(時事)	福島市子
水戸社對國粹會争闘の一考察	(時事)	布原辰治
水戸運動と其人々	(時事)	猪原榮一
我等の水戸運動	(時事)	高橋貞樹
選ばれたる人々	(時事)	佐野學
歴史上の所謂部落民	(時事)	喜田貞吉
水戸情話	(時事)	柳田民藏
射的線に見たる水戸運動	(時事)	柳澤健
僧侶・水戸・土族の三運動	(時事)	鳥崎藤村
部落民の解放	(時事)	中島生
水戸社運動の目的と効果	(時事)	天野道隆
水戸運動の研究	(時事)	今井登寬
解放運動と改善事業	(時事)	留岡幸助
模範的改善事業	(時事)	高橋貞樹
水戸運動の革命的意義	(時事)	有馬頼寧
家庭の和合より社會の平和へ	(時事)	有馬頼寧



融和事業年鑑

地方改善の跡を訪ねて (新民) (一三・一〇) 伊藤 良藏
地方改善に就て (社會時報) (一三・一三) 池田 隆完
委員制度の眞價 (社會時報) (一三・一三) 山本 正男
兄弟に呼びかける言葉 (大朝) (一三・一三) 栗須 七郎
博愛と正義 (萬朝) (一三・一三) 社説

(四) 大正十三年

水 平 社 (社會思想) (一三・一) T・T 生
親愛なる我兄弟よ (同 愛) (一三・二) 前田 三遊
徳川階級政策と其犠牲者の解放 (自由論叢) (一三・二・三) 中井 義雄
第三回水平社全國大會傍聴記 (國 本) (一三・四) 杉並高三郎
所謂特殊民の由来を述べて (宗教と思想) (一三・四) 喜田 貞吉
既成教團と社會運動 (宗教思想) (一三・四) 三浦参玄洞
第三回全國水平社大會 (湖 流) (一三・四) 高橋 義春
水平社大會の印象 (改造) (一三・四) 堺 利彦
水平社と徳川公爵 (國 本) (一三・四) 杉並高三郎
水 平 運 動 (女性改造) (一三・五) 武者小路實篤
中古賤民の等級に就て (大正公論) (一三・五) 建部 運吉
部落問題の眞相と改善に就て (史學雜誌) (一三・五) 瀧川政次郎
眞相の事業と空虛の事業 (同 愛) (一三・五) 遠藤 隆吉
三好伊平次

新興階級の宗教化 (同 愛) (一三・五) 松本 芳美
同胞親善の某調を論じて地方改善に及ぶ (一三・六) 下村春之助
水平社中學の設立 (文化運動) (一三・七) 吉田 杏村
水平運動と農民組合の機能 (同 愛) (一三・九) 岡部 完介
宗教上より見たる差別撤廃問題 (社會時報) (一三・一〇) 下村春之助
水平運動と融和運動 (同 愛) (一三・一〇) 有馬 頼事
社會連帯と融和事業 (島根縣佛教奉公團報) (一三・一一) 三好伊平次
解放運動と政治運動 (同 愛) (一三・一一) 楠本 寛
世間の冷い底を歩いて歩く我等の群 (婦人世界) (一三・一一) 賀川 豊彦
國民懺悔の運動 (同 愛) (一三・一二) 梅原 眞隆
(五) 大正十四年
反省と自覺より解放運動 (同 愛) (一四・一) 松本 芳美
無産青年運動——青年水平社運動 (新 人) (一四・一) 田所 輝明
人種及階級の闘争と調和 (清 和) (一四・一) 赤松 智次
宗教家諸師の奮起を望む (埼玉縣社會事會報) (一四・一) 早川 三郎
幾人が基督教を卒業するか (新 人) (一四・一) 堺 利彦
地方改善事業に就て (埼玉縣社會事會報) (一四・一) 三好伊平次
文化の開成と平等の理想 (融 和) (一四・二) 加藤 唯堂

融和運動の純化 (融 和) (一四・二) 山本 正男
融和の一考察 (融 和) (一四・二) 三好伊平次
眞理を拒む人と愛する人 (融 和) (一四・二) 海原 眞隆
差別撤廃に關する一義的想片 (融 和) (一四・二) 石清水矢磨
水平運動と佛教 (政教新論) (一四・三) 喜田 貞吉
融和運動の根本概念 (融 和) (一四・四) 三好伊平次
部落問題の社會的認識 (融 和) (一四・四) 山本 正男
水平運動と融和運動 (雄 辯) (一四・四) 加藤 唯堂
問題は懸つて機會均等の實現と否とあり (融 和) (一四・五) 三好伊平次
同胞階級の念願 (融 和) (一四・五) 梅原 眞隆
闘と戦慄との軌道 (融 和) (一四・五) 石清水矢磨
差別待遇撤廢の矛盾 (同 愛) (一四・六) 楠本 仙哉
我等大日本への血脈に就て世の妄想を糺す (同 愛) (一四・六) 崇 古子
部落問題管見 (融 和) (一四・六) 本多 讓
融和事業の精神 (社會時報) (一四・六) 三好伊平次
融和運動の必然性とその價值 (同 愛) (一四・七) 山本 正男
差別撤廢と信仰 (公民の信仰) (一四・七) 羽栗 行道
新路に進む水平運動 (水平社第四回大會) (解 放) (一四・七) 編輯 部
積極的融和運動 (融 和) (一四・七) 下村春之助
融和問題に關する三つの誤れる見方 (清 和) (一四・七) 松岡 英介
相互に接近せよ (同 仁) (一四・七) 宮地 久衛

第一章 融和問題研究資料

問題研究上の缺陷に就て (融 和) (一四・七) 三好伊平次
徹底的糾弾に關する若干考察 (協 和) (一四・七) 西原 落陽
融和運動者の態度 (清 和) (一四・七) 松岡 英介
部落解放運動と文藝 (融 和) (一四・七) 木村 設
大同團結の必要 (同 愛) (一四・八) 松本 芳美
徹底的糾弾とは (同 愛) (一四・八) 伊田大 務
人間苦の開拓へ (同 愛) (一四・八) 楠本 寛
融和運動の意味と目標と方途 (融 和) (一四・八) 梅原 眞隆
兒童とその監視觀念 (融 和) (一四・八) 丸岡泰一郎
融和問題の第二線としての同和事業 (同 和) (一四・八) 貴志 二彦
水平運動とその指導者 (共 鳴) (一四・八) 中村 歴
融和問題と現代の女性 (融 和) (一四・八) 岩出 光隆
同胞意識と絶対價値の體認 (同 愛) (一四・九) 梅原 眞隆
差別問題を考へる (同 愛) (一四・九) 楠本 寛
社會改造と水平運動 (同 愛) (一四・九) 影山 白揚
青年諸君に訴ふ (清 和) (一四・九) 松岡 英介
水平運動に關する理論的考察 (同 愛) (一四・一〇) 山本 正男
水平社に謝罪せよ (同 愛) (一四・一〇) 中村 至道
水平運動と融和運動 (社會時報) (一四・一〇) 下村春之助
融和事業の本質 (融 和) (一四・一〇) 三好伊平次
人間意識の眞意義 (同 仁) (一四・一〇) 小根澤義山
人間性に眼覺めよ (青 和) (一四・一一) 安井 章一
大正十四年の部落解放運動の概観 (共 鳴) (一四・一一) 山本 正男



國策を樹立すべし (清和) (一四・一二) 松岡 英介  
融和事業と婦人 (青和) (一四・一二) 三好伊平次

(六) 大正十五年

差別的慣用語の可否について (同愛・一月) 中西 郷市  
査中 小 觀 (同 上) 松崎 狂人  
大正十四年の部落解放運動 (同 上) 河上 正雄  
眞理を愛するが故に (同仁・一月) 濱田 修蔵  
融和運動に關する一考察 (同和・一月) 式内 了温  
激進的傾向を打破せよ (同和・一月) 山本 正男  
二つの問題 (同和・一月) 二十二鐵燈  
水平運動と融和運動 (廣島縣社會時報・一月) 下村春之助  
沈黙の半生を経て水平運動に入るまで (婦人の國・一月) 中川しげ子  
部落問題と宗教 (同愛・二月) 岡田豊太郎  
自治心と融和 (青和・二月) 安井 章一  
融和團體と融和事業 (清和・二月) 松岡 英介  
融和の精神と其實現 (社會時報・二月) 推尾 辨匡  
女性と融和問題 (清和・二月) 内海 正名  
生命主義の融和を提唱す (同愛・三月) 東山 範明  
水平運動と宗教及び道徳 (同愛・三月) 栗須 七郎  
人みな使徒の覺悟あれ (同 上) 廓松居士  
水平運動上より見たる悔悔運動 (清和・三月) 長田調二郎  
差別問題に就き有識階級の反省を促す (清和・三月) 松岡 英介  
眞の融和は眞の理解から (春光・三月) 大島 戸一

融和事業の思想系統  
自我更新の叫びに聽従せよ  
同 朋 愛

融和と善鄰事業  
融和事業の一考察  
部落問題と政治運動  
轉換期の融和運動  
融和に就て  
義務と地方改善  
一般女性の無知を導びけ  
先づその罪を謝せ  
社會政策より見たる融和問題  
社會運動としての水平運動  
水平問題に對する政府の態度  
部落解放運動の概観  
謝罪の氣持ちに就て  
融和運動批判  
融和の捷徑  
水平運動に走るまで  
融和問題に就て  
所謂悔悔運動に就て  
人間と地方改善  
當面の問題  
荷負すべきこと

(廣島縣社會時報・三月) 下村春之助  
(青和・三月) 中村 無外  
(青和・四月) 小柳 牧齋  
(共濟・四號一・一號) 海野 幸徳  
(警察協會雜誌・四月) 谷 龍之助  
(融和運動・四月) 安部 磯雄  
(同愛・五月) 楠本 寛  
(清和・五月) 高田 保馬  
(三重斯民・五月) 松野鈍次郎  
(融和運動・五月) 千葉 龜雄  
(同愛・六月) 中西伊之助  
(同愛・六月) 永井 亨  
(同愛・六月) 赤松 克磨  
(同愛・六月) 安部 磯雄  
(同愛・六月) 山本 正男  
(同 上) 中村 至道  
(同愛・六月) 武内 了温  
(同愛・六月) 宮地 久衛  
(清和・六月) 平野 小劍  
(同和・六月) 有馬 頼事  
(三重斯民・六月) 金子 念阿  
(同和・六月) 松野鈍次郎  
(融和運動・六月) 實志 二彦  
初原 眞隆

指導者の本質

融和 管 見 (共鳴・七月) 十時 彌  
融和運動の主力點 (共鳴・七月) 河野 龜市  
融和事業の基礎觀念 (鳥取縣社會時報・七月) 細川 隆  
苦難の闘ひにある水平運動 (融和運動・七月) 上山滿之進  
歴史的考察無用論に就て (大衆・七月) 木村京太郎  
二つの間に答ふ (同愛・八月) 近藤恭一郎  
融和問題と婦人問題 (同愛・八月) 有馬 頼事  
子供の差別觀念は成人の罪 (同和・八月) 東山 範明  
兒童と融和 (同和・八月) 楠山文三郎  
無差別徹底は民衆救済の大事業 (同和・八月) 竹田 保男  
融和事業家に望む (融和運動・八月) 荒川 五郎  
融和問題と余の所感 (中央融和事業協會報・九月) 長岡隆一郎  
日本の使命と融和問題 (警察協會雜誌・九月) 徳平 憲彰  
融和運動の根本感念 (春光・十月) 谷 龍之助  
衷から起る問題 (清和・十月) 森川 抱次  
融和運動の境界 (同愛・十一月) 金子 念阿  
融和運動の將來について (青和・十一月) 山本 正男  
小さな心鏡に映した大きな天地 (青和・十一月) 中村 無外  
融和事業を巡る諸問題 (青和・十一月) 佐々井信太郎  
融和を沮害する事ども (青和・十一月) 中津川定次郎  
融和事業關係者に望む (中央融和事業協會報・十一月) 長島重三郎  
植木 俊助  
平沼麒一郎

同胞融和の運動

吾々は皆差別者である  
感情融和の必要  
差別問題に對する現行法律制度

内鮮融和運動と部落融和運動  
融和全線の新展開  
差別的言動取締法制定の可否に就いて  
融和問題考察の第一歩  
私の糺弾撤廢提唱  
多羅尾昭徹師を悼む  
大事小感  
部落問題の社會的基礎  
融和事業の趨勢  
昭和の理想と融和の實現

(融和の友・十一月) 岡部 宗城  
(融和運動・十一月) 中村 至道  
(青和・十二月) 花崎 晃順  
(清和・十二月) 舞水 生

(同愛・一月) 有馬 頼事  
(同和・一月) 會 説  
(同愛・一月) 岡田豊太郎  
(中央融和事業協會報・三月) 龍 谷之助  
(春光・二月) 大島 戸一  
(中央融和事業協會報・三月) 三好伊平次  
(同 上) 下村春之助  
(同愛・二月) 山本 正男  
(廣島縣社會時報・二月) 十時 彌  
(中央融和事業協會報・三月) 加藤 唯堂

第三節 參考資料

(一) 明治以前の編著に係る者







職和事業年鑑  
 請御用秘鑑  
 御當家條々書  
 公事問答  
 公裁類集  
 御仕置類例集  
 公事秘傳書  
 御定書例書  
 類例秘錄  
 攝州御留書  
 京都御役所向大概覺書  
 御定書百箇條  
 素家所藏文書  
 佐藤家所藏文書  
 青標帝  
 東清夫論語  
 歐芹屠語

(二) 明治以後の編著に係る者

公議所日誌  
 集議院日誌  
 議案錄

決議錄  
 東京開化繁昌誌  
 明治史要  
 抱腹絕倒詩選  
 明治政覽  
 舊事諸問錄  
 見聞雜錄  
 京都蓮登野村元右衛門歎願書  
 徳川禁令考  
 江戸時代制度の研究  
 徳川時代縣治要略  
 賤民名稱考  
 高岡沿革史  
 徳川正刑史料  
 甲子夜話  
 史籍集覽  
 日本風俗史  
 乞食  
 日本人種新論  
 本居雜考  
 側面觀幕末史  
 兆民文集  
 大隈伯百話  
 萩原乙彦  
 安穴道人  
 依田百川  
 細川廣世  
 菊池俊助  
 松平太郎  
 安藤傳  
 新村出  
 高橋致芳  
 佐久間長敬  
 瀧本誠一  
 平出二郎  
 藤岡太郎  
 原田東風  
 沼田顯輔  
 本居豐顯  
 櫻木章  
 中江兆民  
 江森春吉

大豊平八郎  
 古事類苑  
 日南草蘆集  
 徳川時代の武蔵本庄  
 朝鮮社會考  
 日本我  
 知己入賢  
 朝鮮風俗集  
 國史八面觀  
 天臺道士著作集  
 華胃叢談  
 貧民心理の研究  
 社會學近世の問題  
 最近の社會政策特殊部落問題  
 つむじまがり  
 東山の麓より  
 佛心鬼語  
 精神運動と社會運動  
 世を拗ねて  
 思想は動く  
 江戸から東京へ  
 社會事業講演集  
 帝國公道會經過一斑  
 幸田成文  
 神宮司鹿  
 福本日南  
 諸井六郎  
 明令憲兵  
 司馬憲兵  
 遠藤重吉  
 杉浦重剛  
 今村邦武  
 久米邦武  
 猪狩又藏  
 五島盛光  
 賀川豊彦  
 遠藤隆吉  
 山本美越乃  
 宮武外骨  
 成瀬無極  
 高島米峰  
 賀川豊彦  
 大庭柯公  
 正親町季重  
 矢田輝雲  
 岐阜縣  
 帝國公道會

第一章 職和問題研究資料

新 人 國 記  
 傳説の跡を尋ねて  
 上野と淺草  
 社會事業研究所講義錄  
 日本社會史序論  
 闘争によつて解放へ  
 プルジョアは幸福なるか  
 法律制の研究  
 鳴外全集  
 日本社會史  
 淺草だより  
 思想の中  
 山窩の生活  
 三好郡史  
 二人行脚  
 舊土人に關する調査  
 アイヌの研究  
 明治事物起源  
 黒人問題  
 文藝東西南北  
 理解と同情  
 ニダヤ民族史  
 維新前後に於ける立憲思想  
 日本奴隷史  
 大江天也傳記  
 横山健堂  
 齋藤溪舟  
 三田村篤魚  
 大日本佛教慈善會  
 佐野學  
 佐野學  
 生田長江  
 三浦周行  
 森嶋外  
 本庄榮治郎  
 島崎藤村  
 村田豊秋  
 鷹野彌三郎  
 徳島縣三好郡  
 日下部四郎太  
 金田一京助  
 石井研堂  
 滿川龜太郎  
 木村毅  
 中村健太郎  
 今泉眞幸  
 尾佐竹猛  
 阿部弘藏  
 雜賀博愛







第二章 融和團體職員住所録

本章は昭和二年三月現在の調査に係るものであるが、其後、轉任等に依つて現職を退きたる者、或は、其後、新任したる職員に對しては本協會に於て知り得る限り、削除、又は改補した。

【東京府】

平沼駈一郎(中央融和事業協會會長)豊多摩郡大久保町西大久保四二〇番地  
小濱清純(中央融和事業協會參事)東京市本郷區駒込曙町一六〇ノ八  
藤野 惠(中央融和事業協會參事)東京市麹町區三番町七六番地  
植竹與作(中央融和事業協會參事)豊多摩郡戶塚町下戸塚三二二番地  
三好伊平次(中央融和事業協會參事)荏原郡池上町石川五一番地  
小林伊三郎(中央融和事業協會囑託)北豊島郡西巢鴨町宮仲一八九〇番地  
下村春之助(中央融和事業協會囑託)豊多摩郡中野町桃園二九八〇番地  
阿部壽雄(中央融和事業協會書記)北豊島郡巢鴨町上駒込傳中一六番地齊藤方  
土屋政一(中央融和事業協會書記)北豊島郡下練馬村谷戸  
井上哲男(中央融和事業協會書記)東京市本郷區

【京都府】

區根津西須賀町一六番地末澤方  
清岡長吉(社団法人聖訓奉旨會會長)東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二  
伊藤宗民(社団法人聖訓奉旨會常務理事)東京市牛込區市ヶ谷田町三丁目二番地  
會根朝起(社団法人聖訓奉旨會事務取扱)東京市牛込區市ヶ谷田町三丁目二番地  
大海原重雄(京都府親和會會長)京都府廳内  
島田昌勢(京都府親和會)京都府廳内  
藤 謙(京都府親和會)京都府廳内  
藤管得恩(本派本願寺一如會理事)京都市下京區叵助開町本山役宅  
遠山正雄(本派本願寺一如會評議員)京都市下京區今熊野町南日吉町一三番地  
深井惠照(本派本願寺一如會評議員)京都市下京區木津屋橋上ノ山本方  
村上西恩(本派本願寺一如會理事)京都市下京區叵助開町本山役宅  
原田慶範(本派本願寺一如會理事)京都市下京區

【大阪府】

區花屋町佛具屋町西八片岡方  
武内了温(大谷派本願寺眞身會)京都市南禪寺本多 慶(公平會)京都市上京區田中橋ノ口町四九  
眞正三郎(泉南郡親和會常務理事)岸和田市岸城町一、七五五  
牧野谷政一(豊能郡親和會常務理事)大阪府西成區粉濱町五六六  
齋田重治(大阪城北誠和會理事長)大阪府東成區野江町一丁目

【群馬縣】

縣 忍(群馬縣融和會會長)群馬縣廳内  
高井潤一郎(群馬縣融和會幹事)群馬縣廳内

【埼玉縣】

野手 附(埼玉縣社會事業協會會長)埼玉縣廳内  
三浦繁壽(埼玉縣社會事業協會主事)浦和町官會

松島彌太郎(埼玉縣社會事業協會囑託)埼玉縣大里郡榑澤村

【長野縣】

成澤伍一郎(信濃同仁會常任理事)上田市原町小槌澤山(信濃同仁會常任理事)上田市鍛冶町  
成澤典(信濃同仁會常任理事兼會計係)上田市成澤安太郎(信濃同仁會常任理事)長野縣小縣郡九子町  
東山範明(信濃同仁會融和主任)長野縣更級郡眞島村  
丸山岩雄(信濃同仁會融和主任)長野縣松本市伊勢町  
大熊政五郎(信濃同仁會事務監督)上田市西澤梅嶽(信濃同仁會事務主事)上田市  
兒平小一郎(信濃同仁會囑託)上田市  
成澤英雄(信濃同仁會囑託)上田市

【富山縣】

安藤重吉(富山縣融和會)縣廳内

【静岡縣】

長谷川久一(静岡縣社會事業協會會長)静岡縣廳

融和事業年鑑

内

鈴木勝太郎(静岡縣社會事業協會常務理事)静岡市道手町

鈴木正吉(静岡縣社會事業協會事務囑託)静岡市東區鷹町九七

【愛知縣】

小幡豊治(愛知縣社會事業協會會長)愛知縣廳内  
三上孝基(愛知縣社會事業協會)名古屋市中區千種町字塚越二番地  
東海林茂(愛知縣社會事業協會融和部囑託)名古屋市中區御器所町東八ノ二  
大石三夏(愛知縣社會事業協會融和部囑託)名古屋市中區杉村町二一七番地

【三重縣】

濱藤柳作(三重縣社會事業協會會長)三重縣廳内  
松野純次郎(三重縣社會事業協會融和部主事)津市藏町千百一番地

【滋賀縣】

今村正美(滋賀縣自治協會會長)滋賀縣廳内  
武藤公平(滋賀縣自治協會幹事)滋賀縣大津市神出

【兵庫縣】

長延達(兵庫縣融和會會長)兵庫縣廳内  
小田運藏(兵庫縣融和會主事)神戸市熊野町一丁目六三  
軌保昌範(兵庫縣融和會囑託)神戸市長田區原三七  
内海正名(兵庫縣融和會囑託)神戸市三番町五丁目八九ノ一  
金子念阿(兵庫縣融和會囑託)神戸市外西灘村神田八八

【奈良縣】

吉川吉治郎(大和同志會副會長)奈良縣南葛城郡大正村  
中川義雄(大和同志會宣傳主任)磯城郡秋津村十楚 塔(大和同志會會計書記)南葛城郡御所町六〇九

【和歌山縣】

宮藤梅吉(和歌山縣融和會會長)和歌山縣廳内  
貴志二彦(和歌山縣融和會主任幹事)海草郡貴志村  
辻田龜之助(同和會幹事)伊都郡見好村



第二章 融和團體職員住所録

東平四郎(和歌山縣同和會幹事)伊都郡笠田村  
竹田保興(同和會幹事)和歌山市茶屋ノ丁  
北谷義實(同和會幹事)那賀郡岩出町  
久保廣太郎(同和會幹事)和歌山市北河原五丁目  
藤尾晃誠(和歌山縣同和會囑託)伊都郡應其村  
谷口毅一(和歌山縣同和會書記)伊都郡笠田町

【鳥根縣】

恒松於菟二(鳥根縣和敬會會長)安濃郡大田町  
石川温一郎(鳥根縣和敬會常務幹事)松江市北  
田町  
生松銓一(鳥根縣和敬會常務幹事)松江市奥谷  
町  
余村勝三郎(鳥根縣和敬會書記)松江市米子町  
田淵信夫(鳥根縣和敬會書記)八束郡古江村

【岡山縣】

大原三郎(岡山縣協和會長)岡山縣倉敷町  
藤原康雄(岡山縣協和會主事)岡山市廣瀬町二  
一〇

【廣島縣】

中村桂堂(廣島縣共鳴會幹事)廣島市材木町  
河野龜市(廣島縣共鳴會幹事)双三郡三良坂町  
上島定(同上)吳市寺迫町六〇  
橋谷悖信(吳地方同和會幹事)吳市公園通五  
丁目  
藤原智成(廣島同和會幹事)廣島市寺町本願寺  
別院内

【香川縣】

神保鐵雄(香川縣一心會理事)縣廳内  
仲邑芳三(香川縣一心會幹事)縣廳内

【愛媛縣】

尾崎勇次郎(愛媛縣善鄰會會長)愛媛縣廳内  
横山一俊(愛媛縣善鄰會幹事)松山市出淵町  
善 誠(愛媛縣善鄰會囑託)横山一万町  
中村善太郎(愛媛縣善鄰會書記)温泉郡北吉井  
村  
大瀧喜太郎(愛媛縣善鄰會書記)松山市旭町

【高知縣】

加勢清雄(高知縣公道會長)高知縣廳内  
近 藤次郎(高知縣公道會主事)香美郡岩村六  
三〇番地  
大西正實(高知縣公道會主事)高知市北門筋六  
八八ノ一  
遠田松之助(高知縣公道會幹事)土佐郡朝倉村  
甲七三八番地

【佐賀縣】

古川新八(佐賀縣社會事業協會主事)佐賀郡嘉  
瀬村  
江口清彦(佐賀縣社會事業協會主事)縣廳内

【大分縣】

加藤切夫(大分縣親和會副會長)大分市長濱町  
小野由之丞(大分縣親和會幹事)大分市金池町

【山口縣】

大藤吉五郎(山口縣一心會會長)山口縣廳内  
江邊清夫(山口縣一心會常務委員)山口町  
木村亮(山口縣一心會幹事)山口町  
經井伊介(山口縣一心會幹事)山口町

【神奈川縣】

後藤多喜藏(神奈川縣青和會長)神奈川縣廳内  
中村無外(神奈川縣青和會常務理事)鎌倉郡小  
坂村山之内四二八

【鳥取縣】

藤岡兵一(鳥取縣一心會會長)鳥取縣廳内  
三橋善兵衛(鳥取縣一心會常務理事)鳥取縣廳  
内  
猪口兼治(鳥取縣一心會常務理事)鳥取縣廳内  
細川隆(鳥取縣一心會常務理事)鳥取縣廳内  
林清一郎(鳥取縣一心會囑託)鳥取縣氣高郡吉  
岡村

第三章 融和時事略表

【一月】大正十五年

九日 中央融和事業協會主催の關東方面融和  
事業協議會が埼玉縣熊谷高等女學校で催さ  
れた。  
十七日 中央融和事業協會主催の關西方面  
融和事業協議會が兵庫縣公會堂で催され  
た。  
二十六日 靜岡縣同縣社會事業協會、並に中  
央融和事業協會共同主催の融和事業中堅青  
年講習會が本日より五日間、濱松市遠江織  
物同業組合を會場として催される。  
三十一日 鳥取縣一心會主催の麻草履製作  
講習會が本日より五日間東伯郡東郷村で開

融和事業年鑑

催される。

【二月】

二日 中央融和事業協會と富山縣との共同主  
催に係る融和事業講習會が本日より五日間  
富山縣會議事堂を會場として催される。  
十二日 群馬縣融和會創立。前橋市臨江閣別  
館に發會式舉行。  
十五日 中央融和事業協會と佐賀縣との共同  
主催の融和事業講習會が本日より五日間、  
佐賀郡川上村實相院を會場として催される。  
十八日 大和同志會主催の關西融和團體協議  
會が奈良縣廳内に於て開催された。

【三月】

十七日 鳥取縣一心會主催の麻草履製作講  
習會が本日より二十八日まで東伯郡東郷村  
で催される。  
二十一日 信濃同仁會主催の融和教育講習會  
が本日より四日間、上田市柳原區公會堂を  
會場として開催される。  
二十二日 中央融和事業協會と岡山縣の共同  
主催の融和事業講習會が本日より五日間岡  
山市國清寺を會場として開催される。  
二十八日 全國融和聯盟主催の融和問題協議  
會が東京市麹町區丸の内日本俱樂部に於て  
開かれた。



第三章 融和時 略表

- 一日 山口縣一心會主催の融和事業大會が山口町公會堂に開催された。
- 二日 栃木縣と中央融和事業協會との共同主催に係る融和事業講習會が本日より五日間宇都宮市淨鏡寺を會場として開催された。
- 七日 和歌山縣同和會第三回總會が和歌山縣會議事堂に於て開催された。
- 八日 中央融和事業協會と和歌山縣同和會との共同主催で融和事業講習會が本日より五日間、海草郡野崎村梶取總持寺を會場として開催される。
- 十四日 神奈川縣青和會第二回總會が中郡平塚町小學校に於て開催された。
- 十四日 兵庫縣清和會第三回大會が神戸市神戶小學校講堂を會場として開催された。
- 十四日 大阪府豊能郡誠和會創立、其の發會式が池田尋常高等小學校講堂に於て開催された。
- 十六日 三重縣社會事業協會主催の融和委員第一回總會が縣會議事堂に於て開かれた。
- 十七日 鳥根縣和敬會主催の中國融和團體聯合協議會が鳥根縣廳内に於て開催された。
- 十八日 高知縣公道會第七回總會が縣會議事堂に於て開催された。

- 二十五日 大谷派本願寺眞身會創立、
- 二十八日 廣島縣に於て吳市並に同地方町村を區域とする吳地方同和會創立、其の發會式が舉行された。

【四月】

- 十日 富山縣融和會創立。その發會式が縣會議事堂で舉げられた。
- 十八日 岡山縣協和會第七回總會が皆田郡津山町鶴山館に開催された。
- 二十七日 鳥根縣和敬會第二回總會が大原郡大東町小學校に開催された。
- 二十九日 京都府親和會第三回協議委員會が岡崎公會堂に開催された。

【五月】

- 一日 和歌山縣同和會主催の日高郡第一、第二支會青年講習會が本日から四日間南部町實修女學校に開催される。
- 十六日 大同同志會第十五回總會が高田町専立寺に於て開催された。
- 十九日 貴族兩院議員有志によつて融和問題研究會が創立された。
- 二十五日 中央融和事業協會主催の第二回融和宣傳講演會を開催した。

和事業従事員講習會が東京千駄ヶ谷修養園會館に開催された。

【六月】

- 三日 鳥根縣和敬會主催の部落婦女講習會が本日から十一月三十日まで、鎌川郡鹽谷村玉津に於て開催される。
- 二日 大阪社會事業聯盟研究部第一都會主催の近畿府縣の第二部融和事業協議會が開催された。
- 七日 中央融和事業協會、愛知縣及び同縣社會事業協會との共同主催の融和事業講習會が本日より五日間、碧海郡大濱町稱名寺に於て催される。
- 十二日 鳥取縣一心會第三回總會が縣會議事堂に於て開催された。
- 二十日 同愛會が其の機關誌「同愛」の五週年記念號を發行した。

【七月】

- 二日 同愛會創立五週年記念事業として、國民新聞社横上に於て、本日から三日間毎夕共創生劇林幹氏等出演の紀念劇が公開された。

- 十四日 山口縣、同縣一心會、及び中央融和事業協會共同主催の融和事業講習會が本日より四日間山口町洞壽寺で開催される。
- 二十日 滋賀縣自治協會總會が大津市で催された。
- 二十日 鳥取縣、同縣一心會及び中央融和事業協會共同主催の融和事業講習會が本日より四日間、西伯郡大山村洞明院を會場として催された。
- 三十日 中央融和事業協會から「融和事業年鑑」が發行された。

【八月】

- 一日 神奈川縣青和會主催の鎌倉夏季講座が本日から三日間、鎌倉小學校に開催される。
- 二日 京都府、同府親和會並に中央融和事業協會共同主催の融和事業講習會が本日から五日間、葛野郡嵯峨町天龍寺に於て催された。
- 七日 吳地方同和會の野外宣傳が本日より十日間同地方に於て催される。
- 二十八日 大同同志會は、本日の解放合發布記念に於て、御所高等女學校講堂で、融和事業年鑑

【九月】

- 六日 中央融和事業協會と熊本縣の共同主催の融和事業講習會が本日より五日間、阿蘇郡長陽村湯ノ谷向上學園に開催される。
- 十四日 全國高等警察事務打合會が内務省で開かれた。
- 十六日 全國高等課長會議が前日に引き続き、内務省に於て再開され「融和問題に關する件」を議題とし、打合せを爲した。
- 二十九日 和歌山縣同和會主催の第三回近畿府縣融和事業協議會が、和歌山縣會議事堂に於て開催された。

【十月】

- 四日 中央融和事業協會主催の第二回融和事業従事員講習會が本日から五日間、廣島縣巖島町尋常小學校講堂に於て開催される。
- 四日 神奈川縣主催の第四回融和事業講習會が本日より五日間、鶴見總持寺に於て開催される。
- 九日 廣島縣幹旋の第二回中國諸縣社會課長會議が今明兩日同縣下巖島町尋常高等小學校講堂に於て開催される。
- 十二日 全國學務部長會議の終了を受けて、同部長の融和問題協議會が中央融和事業協會主催の下に開催された。
- 十八日 中央融和事業協會奈良縣及大同同志會の共同主催に係る融和事業講習會が本日より五日間、磯城郡初瀬町長谷寺を會場として開催される。
- 二十一日 本願寺山口教區主催の講習會が本日から五日間、山口町正福寺に於て開催される。
- 二十五日 京都府下の融和團體、眞身會、一如會、公平會、親和會、聖訓會の代表者が京都府廳内に於て協議會を開き京都府融和團體聯合會を組織した。



【十一月】

二日 高知縣、岡縣公道會、及び中央融和事業協會共同主催の融和事業講習會が本日から五日間、長岡郡五稜山村竹林寺に於て開催された。

十日 教化團體聯合會主催の第三回全國教化團體協議會が、今明兩日、日本青年館に於て開催され、國民の協調融和に關する件に付協議した。

十三日 公平會第三回總會が京都市河原町三條東洋亭に開催された。

【二月】 昭和二年

十八日 鳥根縣和教會主催の婦女講習會が本日から三月三十一日までの期間に亘つて、安濃郡大田町山崎に於て開催される。

二十七日 靜岡縣と同縣社會事業協會共同主催の第二回中堅青年講習會が榛原郡相良町に於て開催された。

二十七日 群馬縣融和會主催の家庭經濟講座が本日から四日間、碓氷郡八幡村少林山遠康寺で催される。

【三月】

十七日 岡山縣主催の中堅青年養成講習會は本日より五日間岡山市に開催。

一日 山口縣一心會主催の第二回山口縣融和事業大會が山口町公會堂で開催された。

五日 和歌山縣同和會第四回總會が縣會議事堂に於て開催された。

十九日 兵庫縣融和會第四回大會が加古郡加古町小學校講堂で催された。

二十五日 佐賀縣社會事業協會主催の第二回社會事業講習會が本日より四日間、佐賀郡川上村實相院で催される。

昭和二年八月十日印刷  
昭和二年八月十五日發行

融和事業年鑑奥付

定價壹圓

編輯者

東京市麹町區元衛町内務省社會局構内

中央融和事業協會

(代表者) 三好伊平次

發行者

中央融和事業協會内

三好伊平次

印刷者

東京市麹町區麹町八丁目

杉田彌太郎

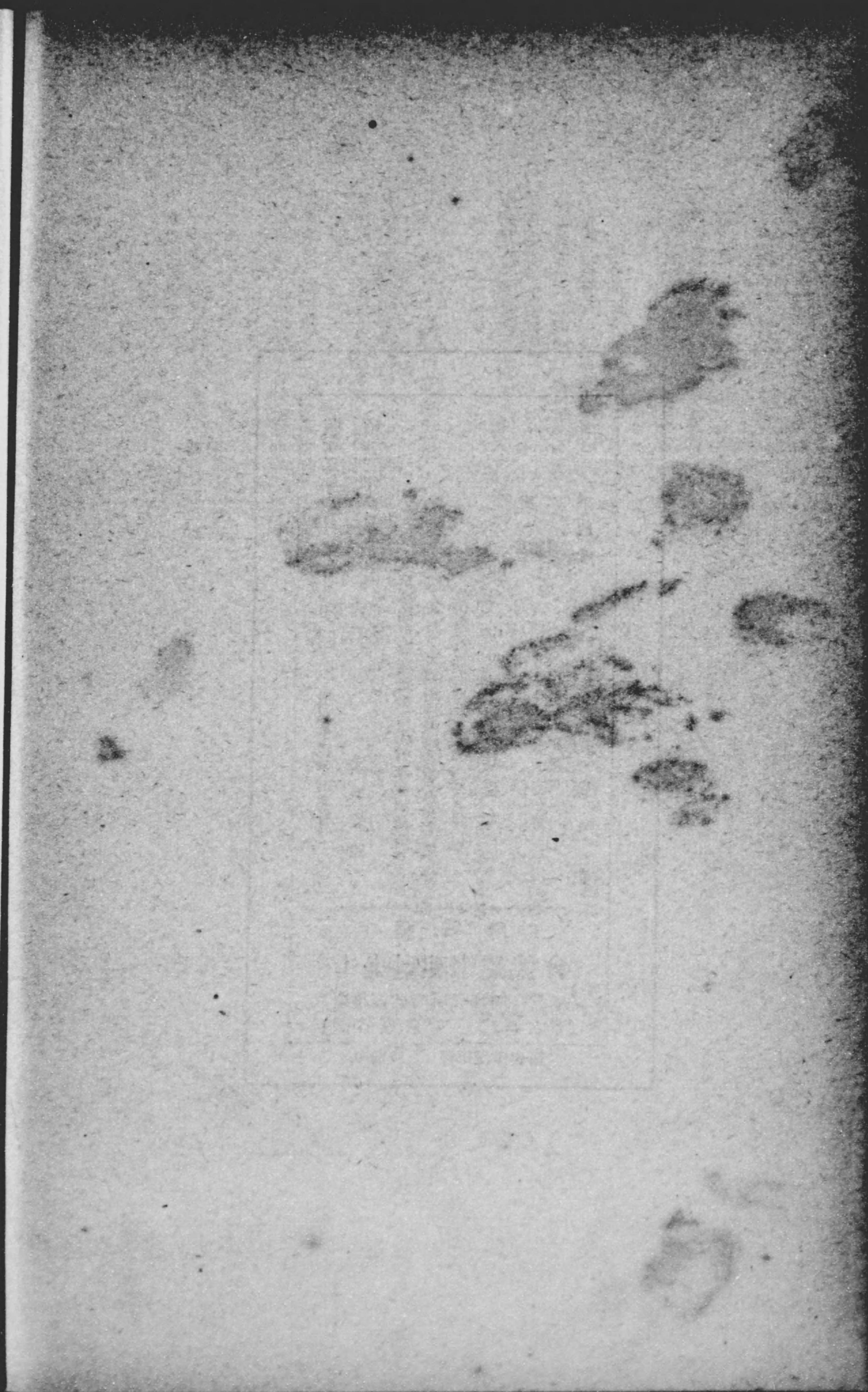
發行所

中央融和事業協會

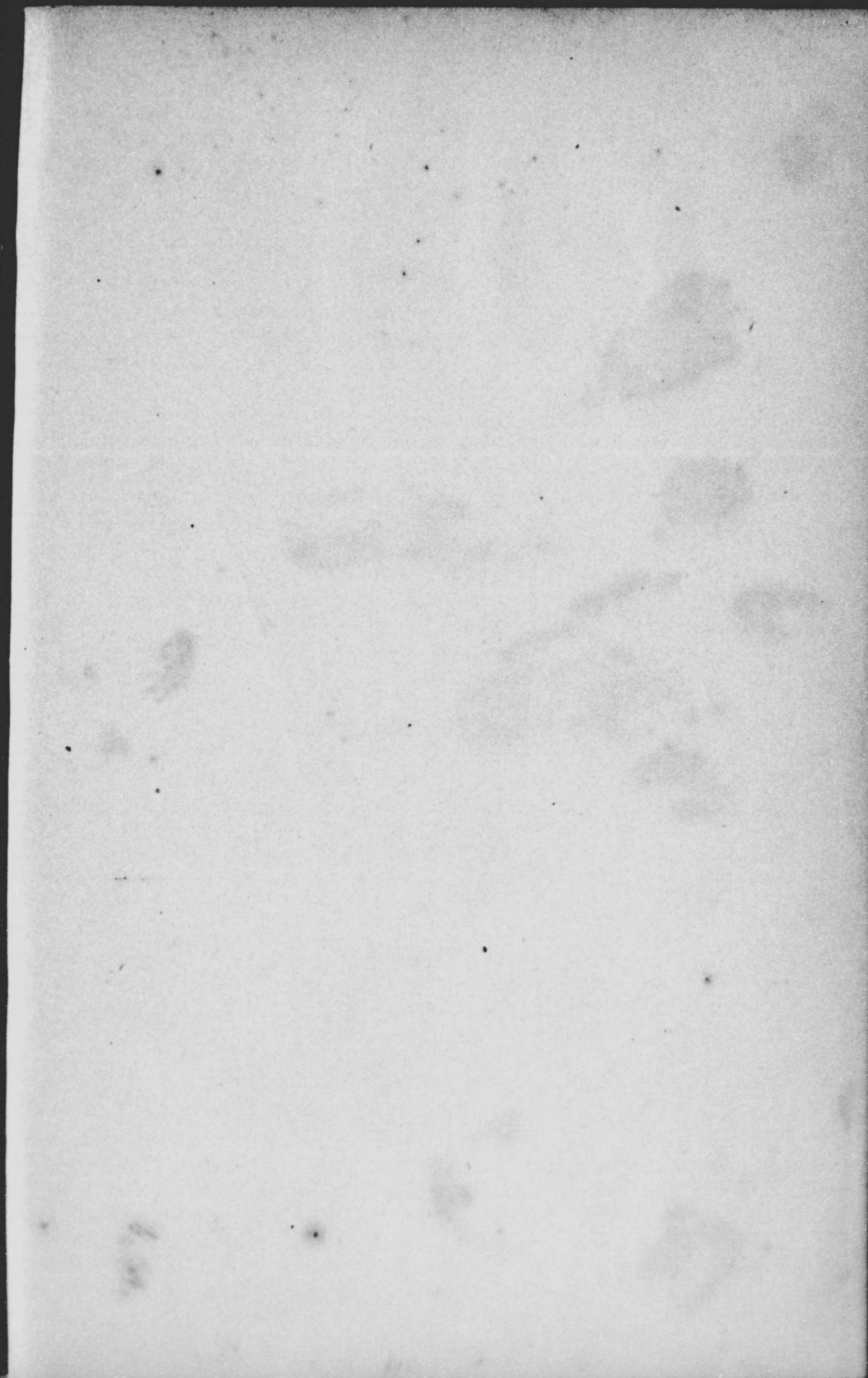
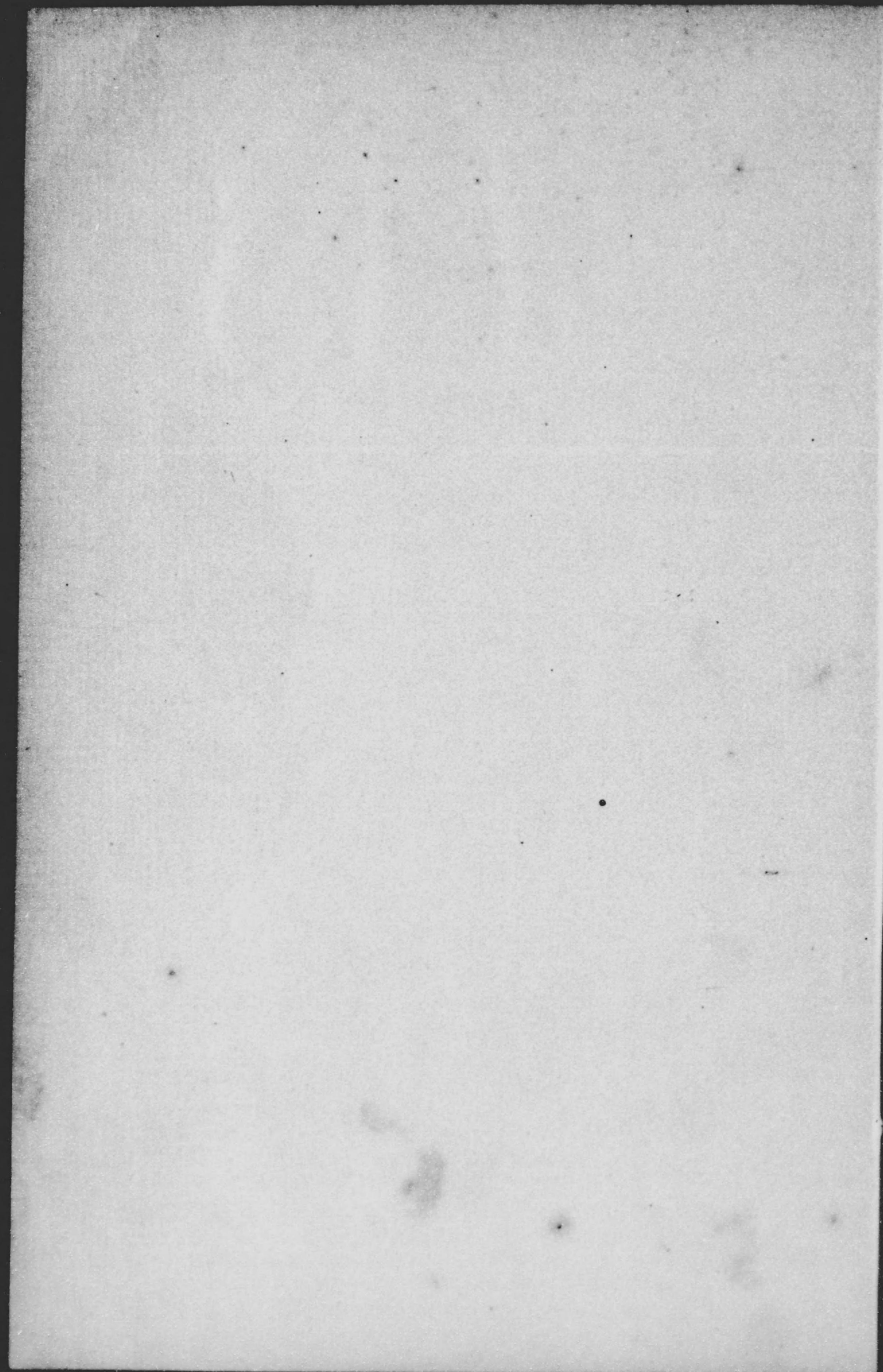
(東京市京東區元衛町一丁目番地)  
(振替東京七〇〇八六番)

印刷所 杉田屋印刷所

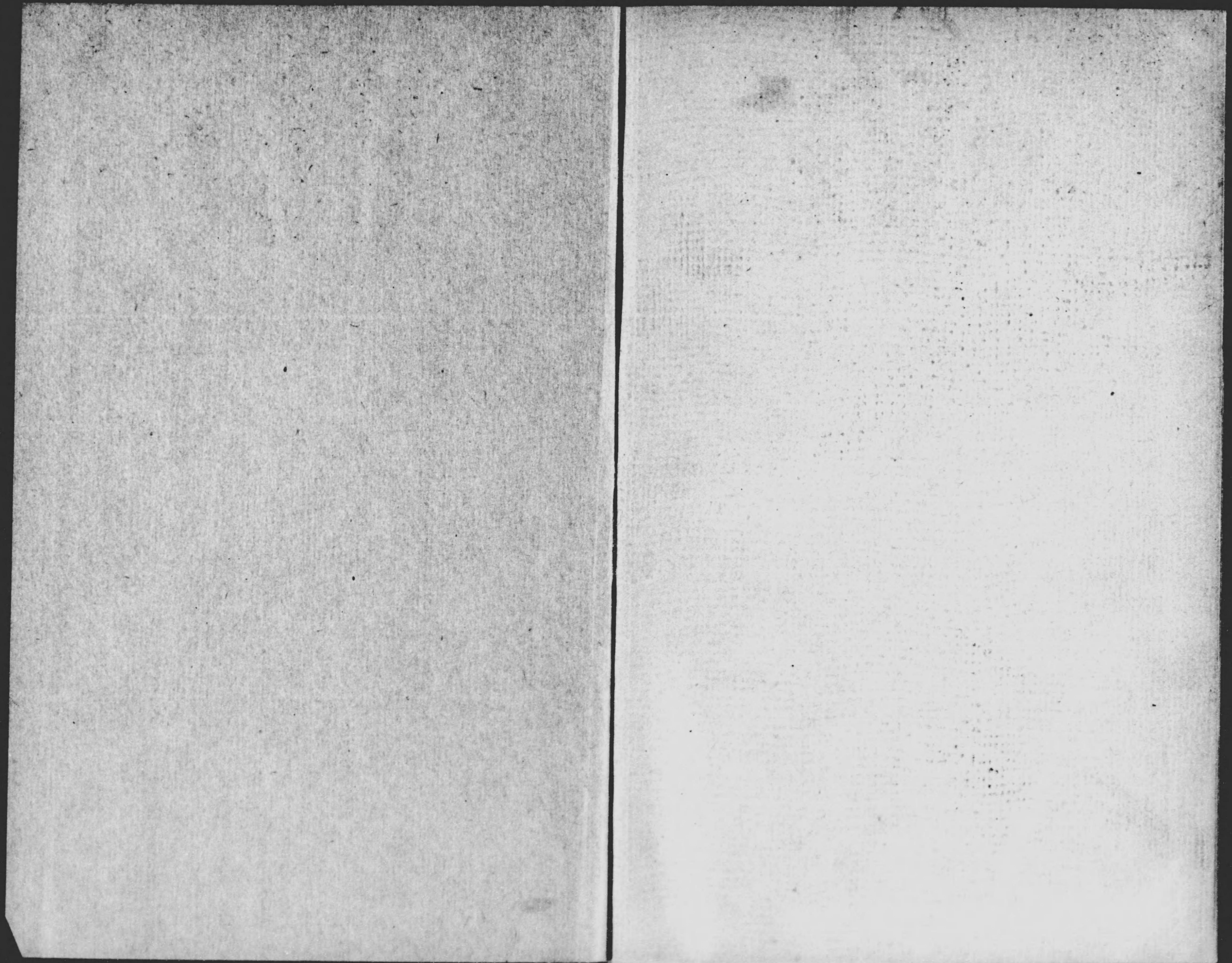














14.4  
739



1911

1911



